

7. 堰と周辺地域との関わり

7.1 堰周辺地域の概要

(1) 概要

加古川大堰周辺の概況を図 7.1-1に示す。

加古川はその源を丹波、但馬、播磨の境界に連なる丹波市 青垣町の粟鹿山(962m)に発し、遠阪川、葛野川、柏原川、牧山川、岩屋谷川等を合わせながら水上低地、柏原盆地を南流し、丹波市 山南町井原において、加古川水系の支川としては最大の流域面積を有する篠山川と合流する。さらに、その後、杉原川、野間川等を合わせ、西脇市と加東市との市界付近より国土交通大臣管理区間を流れて東条川、万願寺川、美囊川等を合わせ、加古川市、高砂市の市界において播磨灘に注ぐ一級河川である。

その流域面積は、約 1,730km²で兵庫県内の 11 市 3 町を包含する。

加古川の河口から約 12km 上流にある加古川大堰は、洪水の安全な流下と利水補給を目的としており、堰及びその貯水池は加古川市内に位置している。

加古川大堰へのアクセスは、公共交通機関を使用する場合、最寄駅は JR 加古川線「厄神駅」(加古川大堰より約 1.5km)と「神野駅」(加古川大堰より約 1.5km)となる。公共交通機関を使用しない場合、自動車では最寄の山陽自動車「三木小野 IC」より約 8km、国道 2 号「加古川ランプ」より約 8km となる。



図 7.1-1 加古川大堰周辺の概況

(2) 人口

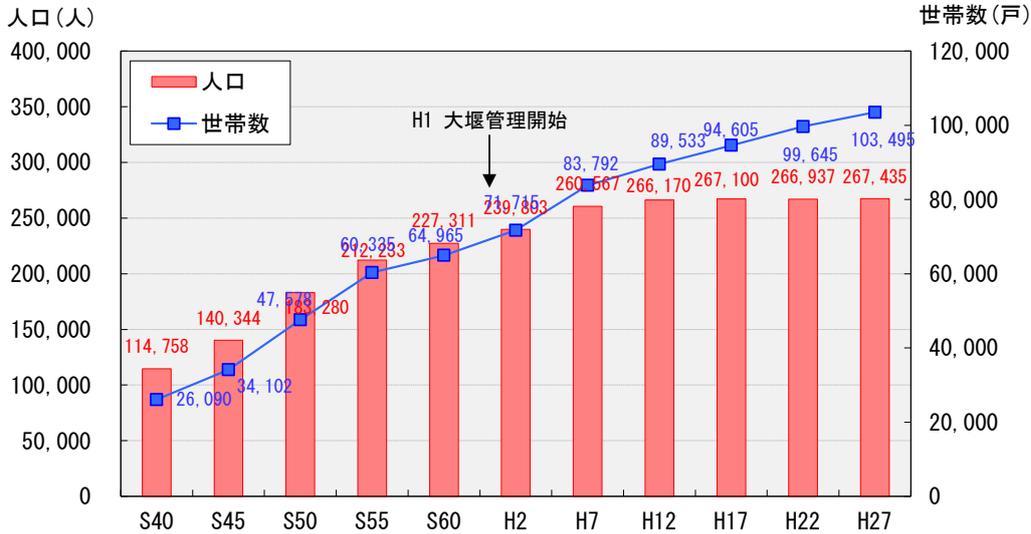
加古川大堰の流域に関連する自治体として加古川市及び高砂市の人口および世帯数の経年の推移を図 7.1-2に示す。

加古川市および高砂市は、大阪市より 100km 圏内、神戸市より 50km 圏内、姫路市より 20km 圏内に位置し、昭和年代から大阪都市圏の通勤圏として人口が急速に増加した。両市とも平成 7 年をピークに、以降は横ばいに転じており、最新の平成 27 年の国勢調査によると加古川市は 267,435 人、高砂市は 91,030 人となっている。

一方で、両市とも、世帯数は平成 7 年以降も増加傾向に鈍化はみられず、平成 27 年の国勢調査によると加古川市は 103,495 世帯、高砂市は 36,340 世帯となっている。

人口や世帯数の経年の推移を踏まえると、堰の流域に関連する自治体は核家族化が進んでおり、これに伴い加古川大堰より補給する水道水の世帯個数は、増加傾向にあるものと考えられる。

【加古川市】



【高砂市】

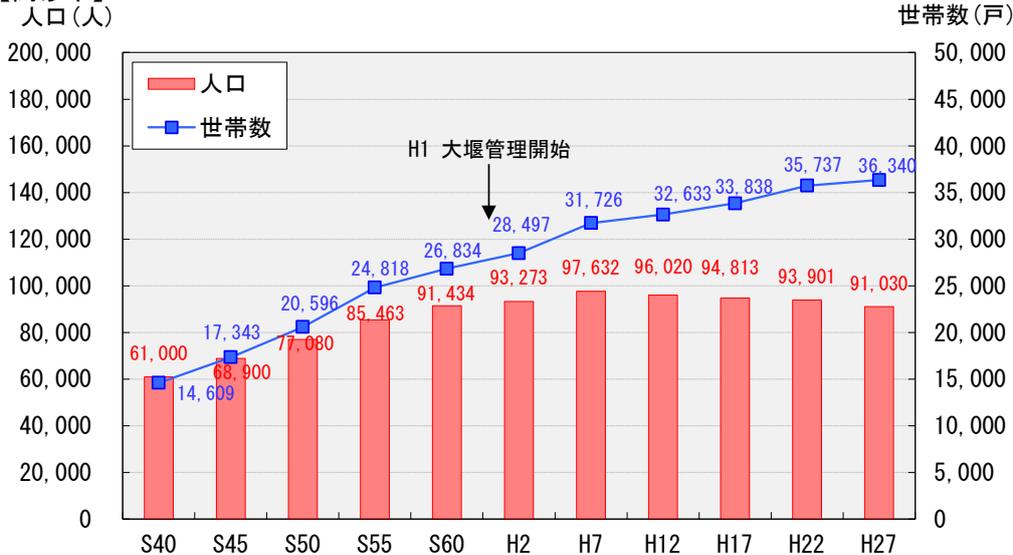


図 7.1-2 加古川市、高砂市の人口及び世帯数の推移

(出典:資料 7-1)

(3) 産業

加古川市および高砂市の産業別就業人口の経年の推移を図 7.1-3に示す。

産業別では、両市とも、昭和年代より全体に占める第1次産業の就業人口は極端に少なく、第3次産業の就業人口が最も高くなっている。両市とも、第3次産業の就業人口は、平成17年をピークに、平成22年に僅かに減少したものの、最新の平成27年では再び増加し、加古川市が79,825人、高砂市が25,761人となっている。

加古川大堰から工業用水を補給されている第2次産業は、管理開始以降、平成7年をピークに、以降は減少傾向に転じ、平成27年では、加古川市が39,169人、高砂市が14,857人となっている。

よって、地域の産業別就業人口動態より、大堰より補給する工業用水の需要は減少傾向にあるものと考えられる。

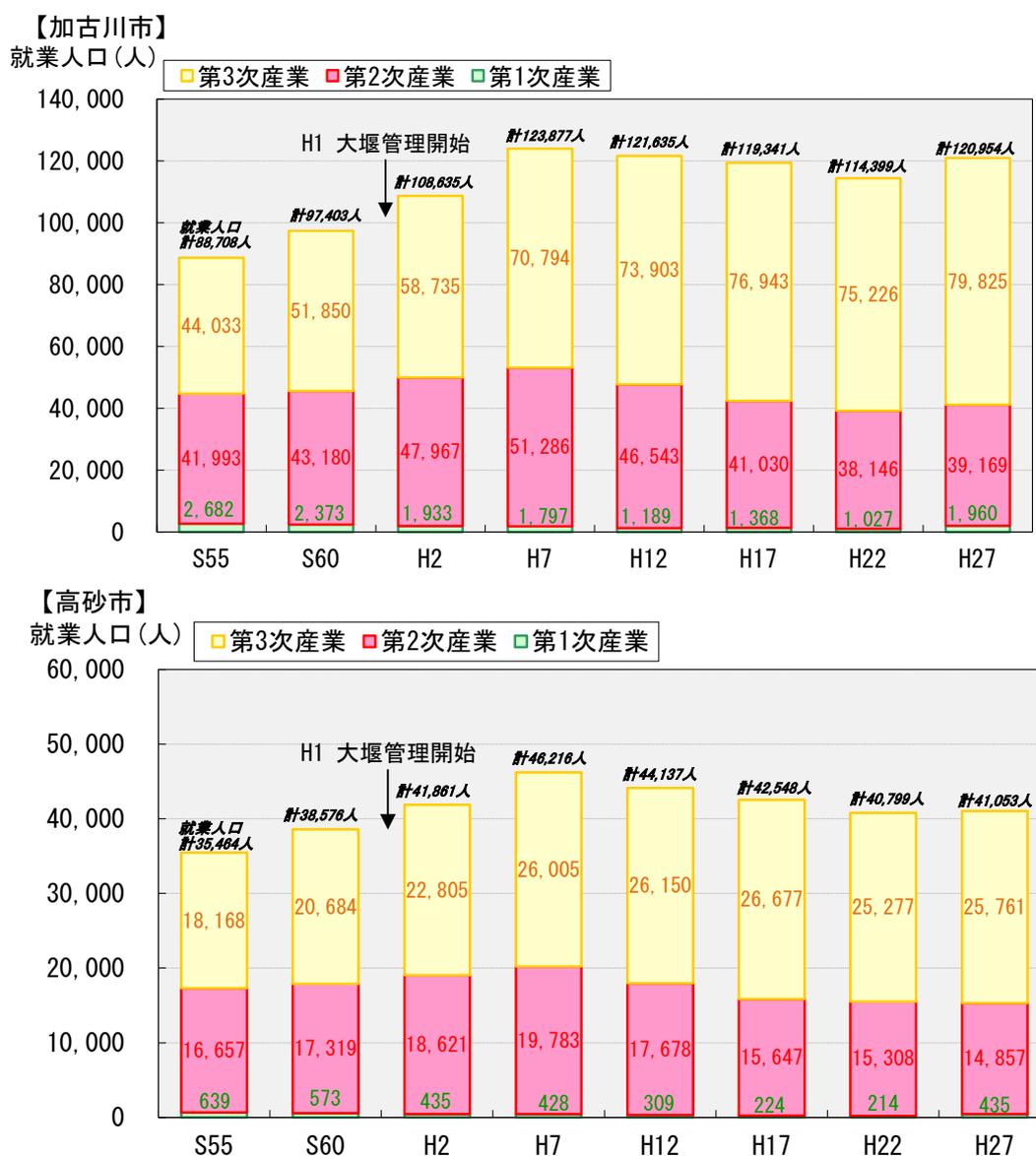


図 7.1-3 加古川市、高砂市の産業別就業人口の推移

(出典:資料 7-1)

■参考：堰周辺の小地域単位の人口動態について

加古川大堰周辺の小地域単位の概況を図 7.1-4に示す。

加古川大堰を中心に小地域単位を構成する区分は、加古川市の一部を形成する八幡町、上荘町、平荘町、神野町、新神野が該当する。これらの小地域の人口等の経年の状況を、堰を中心とした人口動態等を参考資料として整理した。



図 7.1-4 加古川大堰周辺の小地域区分の概況

1) 人口

加古川大堰周辺の小地域の人口の経年の推移を図 7.1-5に示す。

国勢調査の結果のうち、一般に統計局ホームページ (<http://www.stat.go.jp/>) 上で公開されている平成7年以降のデータを整理した。

小地域区分のうち、上荘町、平荘町、新神野は人口が調査データのある平成7年以降は減少傾向であり、八幡町は平成22年をピークに平成27年は減少、神野町は平成17年をピークに減少しており、堰を中心に減少傾向にあった。

世帯数については、上荘町、平荘町、新神野で横ばいに推移、八幡町、神野町では僅かに増加傾向にあり、世帯数あたりの人口減が進んでいることが示された。

加古川市全体では、人口は横ばいに推移しているものの、世帯数は経年で増加傾向にあり、堰周辺の小地域とは人口動態に違いがみられた。堰周辺の小地域は、加古川市の中心部とは、若干の離隔もあり、加古川市の中心部への人口の集中傾向があるものと考えられた。

堰周辺の小地域の人口減少は、堰周辺の様々な地域活動に影響を及ぼす可能性が考えられる。

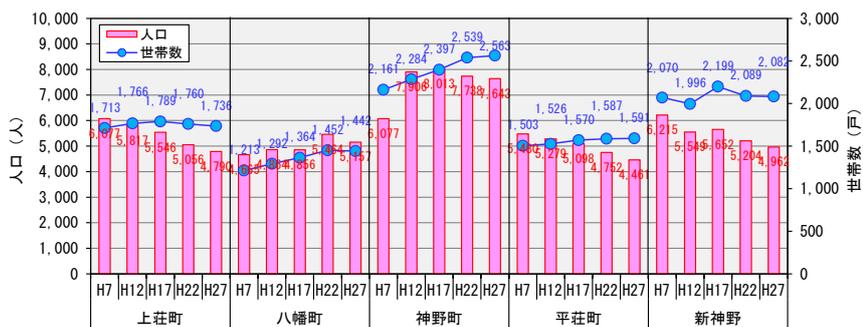


図 7.1-5 加古川大堰周辺の小地域の経年の人口 (出典:資料 7-1)

2) 産業

加古川大堰周辺の小地域の就業人口の経年の推移を図 7.1-6に示す。

国勢調査の結果のうち、一般に統計局ホームページ (<http://www.stat.go.jp/>) 上で公開されている平成7年以降のデータを整理した。

小地域区分のうち、新神野では第2次及び第3次産業の就業人口は、統計データのある平成7年より顕著な減少傾向であり、平荘町は緩やかな減少傾向、上荘町は平成12年以降で減少傾向、八幡町は横ばいに推移しており、小地域区分毎に違いがあった。

神野町は、平成17年10月18日に、新たに石守1丁目～3丁目、福留1丁目が増加（「加古川市例規集」を参照）され、平成22年に大幅に人口が増加しているが、概して、第2次及び第3次産業は、緩やかな減少傾向であると推測される。

一方で、いずれの小地域区分も第1次産業については、極めて人口を少ないものの、経年で大きな変化はなかった。

よって、堰周辺の小地域区分の就業人口動態からも、大堰より補給する工業用水の需要は減少傾向にあるものの、農業用水については、需要に大きな変化はないと考えられる。

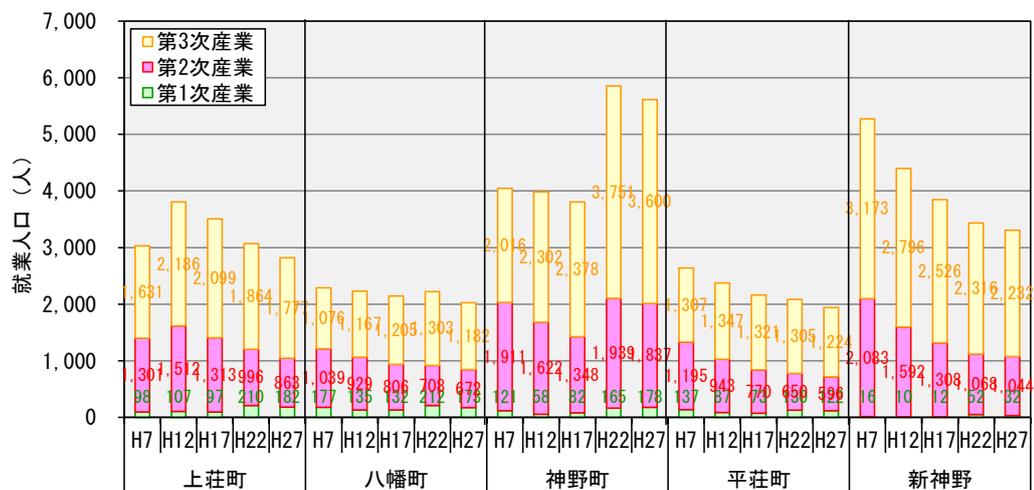


図 7.1-6 加古川大堰周辺の小地域の経年の就業人口 (出典:資料 7-1)

7.2 堰の立地特性

(1) アクセス性

加古川大堰周辺の交通網を図 7.2-1に示す。

加古川市は、大阪市より 100km 圏内に位置し、神戸市街より西約 50km、姫路市街より東約 20km に位置し、加古川は加古川市のほぼ中心部を貫流する河川である。

加古川大堰は、加古川の河口から 12km の地点に位置している。

加古川市は、兵庫県の瀬戸内側に位置することから、主要な交通網である山陽新幹線や山陽自動車道が、加古川市を挟むように海岸線に平行に整備されている。また、加古川沿いには JR 加古川線と県道 18 号線が整備されており、堰へのアクセス路としての機能も有する。

加古川大堰へのアクセスは、電車では JR 加古川線「^{やくじん}厄神

自動車では、加古川バイパス加古川ランプより北へ約 8km、山陽自動車道「三木小野」インターチェンジより約 8km となっている。



図 7.2-1 加古川大堰周辺の交通網

(2) 周辺の観光施設(スポット)等の状況

加古川流域の観光施設の概要を表 7.2-1、観光施設の位置図を図 7.2-2に示す。

加古川大堰よりアクセスが容易な観光施設としては、加古川市内の「鶴林寺」、加古川河口部の「高砂海浜公園」などがある。

表 7.2-1 観光地等の概要

観光地等名称	所在地	概要
薬草薬樹公園	丹波市	園内には約 250 種類の薬草薬樹が栽培されています。オリジナルの薬草風呂、薬膳料理などを堪能できる。
みわか 水分れ公園	丹波市	降った雨が日本海側と瀬戸内海側に分れ、両方で川を形成する特殊な場所。園内には「水分れ資料館」もある。
ガルテン やちよ 八千代	多可町	フランス料理レストランを備えたレクリエーションエリア。各種スポーツや特産物の加工体験などができる。
ごひやくらかん 五百羅漢	加西市	羅漢寺の境内には、様々な顔をした 400 体以上の石仏がひしめいている。いつ誰がなぜ制作したのか、全てが謎となっている。
滝野温泉ぽかぽ	加東市	闘龍灘をイメージした浴室や、屋形船風呂、洞窟風呂など、趣向をこらした湯船を豊富に備えている。
たかさごかいひんこうえん 高砂海浜公園	高砂町	白砂青松の高砂の浜を再現した公園。釣りや潮干狩り、人口島の散策などに四季を通じて多くの人々が訪れている。
かくりんじ 鶴林寺	加古川市	聖徳太子ゆかりの太子堂は、国宝に指定された県下最古の木造建築。平安時代に描かれた壁画が発見されている。
浄土寺	小野市	堂内の阿弥陀三尊像は、鎌倉時代の有名な仏師、快慶の作。本堂、三尊像のいずれも国宝に指定されている。
グリーンピア三木 (NESTA RESORT KOBE)	三木市	大規模な保養エリアには、レーザー気分が味わえるグランプリカートなど、多種多彩な設備がそろっている。 (平成 27 年 12 月 15 日に営業終了し、平成 28 年 7 月 1 日をもって、運営団体が変わり、新たにリニューアルオープンしている。)
日本へそ公園	西脇市	日本の“へそ”(中心)に位置する公園。美術館、科学館などの知的アミューズメント施設がある。
春日神社	篠山市	春日神社境内に建てられた、全国屈指の野外能舞台。春の春日能をはじめ、年 3 回、雅びな能が演じられている。

(出典:資料 7-2)



図 7.2-2 加古川流域の観光地等の位置

(出典:資料 7-2)

■参考：統計データを用いた堰周辺の観光者の動態

近5カ年の加古川大堰周辺の観光地への観光客の動態を把握するため、兵庫県が実施する観光客動態調査の公表データ (<https://web.pref.hyogo.lg.jp>) のうち、堰の周辺に位置する「東播磨地域」、「北播磨地域」、「中播磨地域」、「丹波」の4地域を整理した。

地域別の動態については、公表データのある平成17年度より整理した。

なお、地域別の動態データについても、平成22年度より新たな「観光入込客統計に関する共通基準」に基づく算出法に切り替わっており、平成21年度までと、平成22年度以降では入込客数に算出法の違いに基づく差異が存在する。

観光地別の動態については、平成21年度から平成22年度に統計の対象となる観光地に大きな変更があるため、平成22年度以降の公表データのみを整理した。

1) 東播磨地域

平成22年度以降に統計の対象となっている「東播磨地域」の主要な観光地を表7.2-2、主要観光地における経年観光客入込数の推移を図7.2-3、「東播磨地域」全体の経年観光客入込数の推移を図7.2-4に示す。

「東播磨地域」の主要な観光地としては、「明石公園」、「大蔵海岸」、「魚の棚商店街」等が上げられた。特に、加古川大堰の流域に関連する自治体である加古川市が対象となっているものでは、「加古川まつり」、「日岡神社」、同様に加古川大堰の流域に関連する自治体である高砂市が対象となっているものでは、「鹿島神社」が該当した。

「東播磨地域」において、平成22年度以降では、いずれの年も最も観光客入込数が多い観光地は「明石公園」で、全体の50%以上を占めていた。加古川大堰の流域に関連する自治体の加古川市では、「加古川まつり」は、年毎に観光客入込数にバラツキがあり、開催日の天候の影響を受けているものと考えられた。「日岡神社」は、年毎に観光客入込数は、概ね横ばいで推移しており、「東播磨地域」においては、「明石公園」に次ぐ観光客入込数の多い観光地であった。高砂市の「鹿島神社」の年毎の観光客入込数も、平成23年度を除けば、概ね横ばいで推移しており、当該地域の代表的な参拝寺社となっていた。

なお、明石市に位置する「柿本神社」については、最新の平成27年度では、統計の対象外となっている。

「東播磨地域」全域での日帰りと宿泊の観光客入込数では、合計値が平成17年度から平成21年度では1,000万人を超える観光客入込数で推移していたが、平成22年度は約900万人となり、約100万人の減少となったが、前述したように観光客入込数の算出法が変更になったことに起因すると考えられる。平成23年度以降は、約870万人以上の横ばいで推移しており、大きな変化はない。日帰りと宿泊の割合をみると、日帰りの観光客入込数の割合が、大部分の約95%を占めていた。

「東播磨地域」の観光客動態の整理結果を踏まえると、「東播磨地域」にある観光地への訪問者は、遠隔地の人々よりも、比較的に地域の地元の人々が多く、全体の数値が横ばいで推移している状況を踏まえると、リピーターとして利用している可能性が高いと考えられる。

表 7.2-2 (1) 東播磨地域の主要な観光地

観光地名称	所在地	概要
明石公園	明石市	赤松山台地にのこる明石城跡を中心につくられた都市公園。堀は周辺の自然環境と調和して美しく、春は桜、初夏は新緑、秋は紅葉と市街地にありながら野趣ゆたか。
大蔵海岸	明石市	明石海峡を望む絶好のロケーション。夏は海水浴やバーベキューができるほか、併設の多目的広場ではサッカーやゴルフを楽しむことができる。
魚の棚商店街	明石市	明石鯛、明石ダコ等の鮮魚、本場の「明石焼き」が人気の商店街。「まちかどコミュニケーションスペース」では、年間を通し様々なイベントや催しが行われている。
加古川まつり	加古川市	市制施行3周年の昭和28年から始まり、今年で46回を迎える花火大会。今では加古川の夏の一大イベントとして、最大級の規模と人気を誇る花火大会となっている。

表 7.2-2 (2) 東播磨地域の主要な観光地

観光地名称	所在地	概要
日岡神社	加古川市	天平の時代（約1300年前）の創祀といわれている神社。古来より安産の神様として崇敬されており、播州地区の各地からたくさんの人々がお参りに訪れている。
鹿島神社	高砂市	播磨の国、国分寺の東院として大日寺が建立された時その鎮護の神として奉祀された神社。心を込めてお参りする時、その願いは必ずかなえられるといわれている。

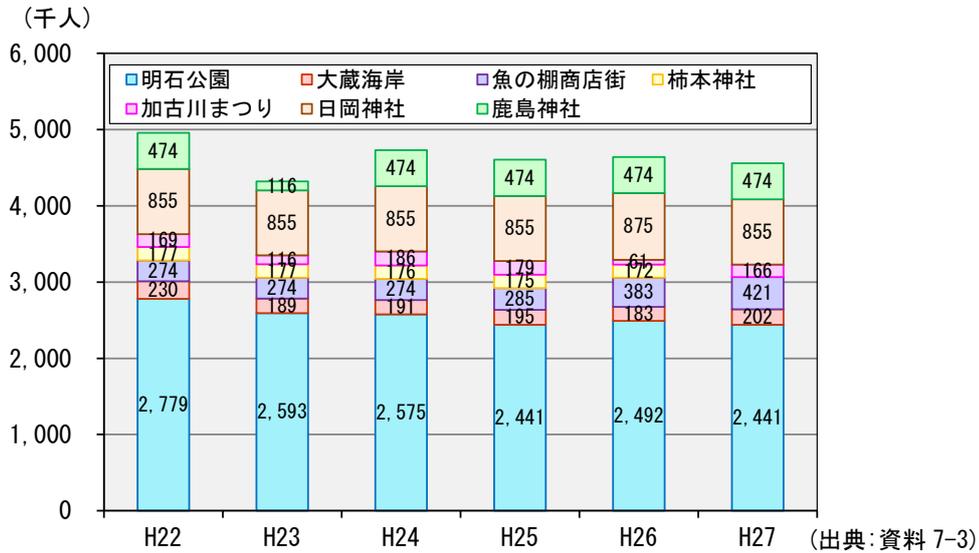


図 7.2-3 東播磨地域の主要観光地における経年観光客入込数の推移

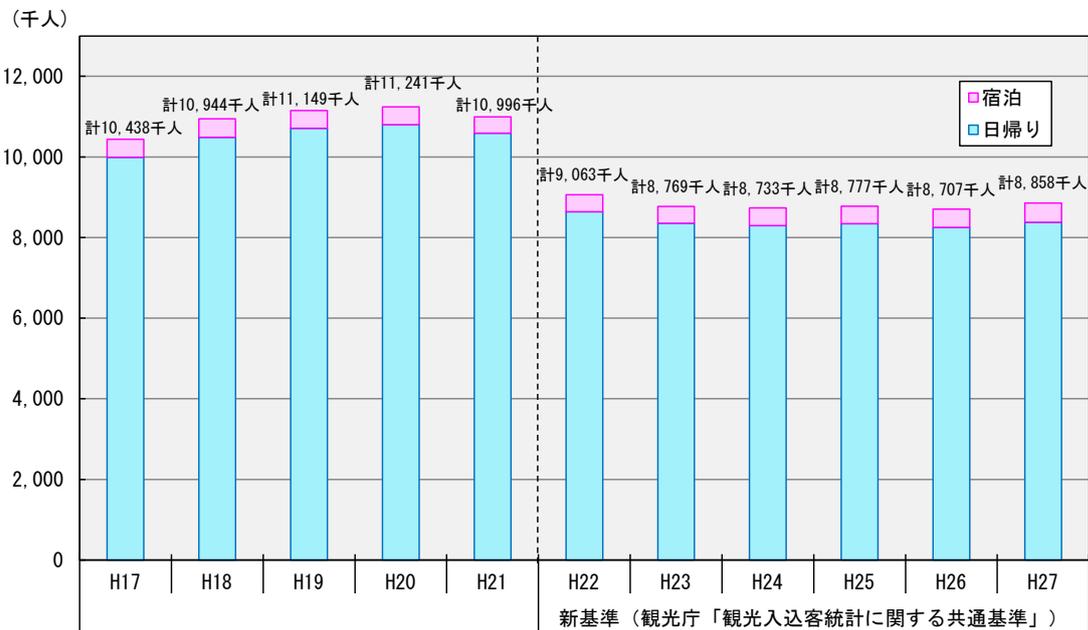


図 7.2-4 東播磨地域の経年観光客入込数の推移

2) 北播磨地域

平成 22 年度以降に統計の対象となっている「北播磨地域」の主要な観光地を表 7.2-3、主要観光地における経年観光客入込数の推移を図 7.2-5、「北播磨地域」全体の経年観光客入込数の推移を図 7.2-6に示す。

「北播磨地域」の主要な観光地としては、「三木市内ゴルフ場」、「加東市内ゴルフ場」、「三木総合防災公園」等が上げられた。

「北播磨地域」において、平成 22 年度以降では、いずれの年も最も観光客入込数が多い観光地は、毎年 1,000 千人を超えている「三木市内ゴルフ場」であった。ただし、「三木総合防災公園」も、平成 27 年度については、1,000 千人を超える状況であった。「三木総合防災公園」の観光客入込数は、平成 22 年度と平成 27 年度の数値を比較すると、約 30%増加しており、地域の中では、最も大きな伸びを示していた。

なお、「東条湖おもちゃ王国」は、平成 22 年度は統計の対象外となっている。

「北播磨地域」全域での日帰りと宿泊の観光客入込数では、合計値が、いずれの年も 1,200 万人を超える状況で推移し、経年で大きな変化はないが、平成 21 年度以前と平成 22 年度以後では、前述したように観光客入込数の算出法が変更になっている。平成 22 年度以降は、約 1,300 万人以上の横ばいで推移しており、大きな変化はない。日帰りと宿泊の割合をみると、日帰りの観光客入込数の割合が、大部分の約 95%を占めていた。

「北播磨地域」の観光客動態の整理結果を踏まえると、「東播磨地域」にある観光地への訪問者は、遠隔地の人々よりも、比較的に地域の地元の人々が多く、全体の数値が横ばいに推移している状況を踏まえると、リピーターとして利用している可能性が高いと考えられる。

表 7.2-3 北播磨地域の主要な観光地

観光地名称	所在地	概要
三木市内ゴルフ場	三木市	三木市は西日本一のゴルフ場数を誇り、約 25 箇所ある。六甲山や丹波の山々を望むことができ、プレーしながらさまざまな景色を楽しむことができる。
加東市内ゴルフ場	加東市	大阪・神戸から車で 1 時間以内のため、年間約 80 万人ものゴルファーが訪れ、プロゴルフトーナメントも毎年開催されている。
三木総合防災公園	三木市	災害時には全県の広域防災拠点として機能する県立の広域公園。通常は県民のスポーツ・レクリエーションの拠点となっている。
播磨中央公園	加東市	緑の樹林に囲まれた丘や大小の池が散在する自然豊かな県立公園。野外ステージや運動施設だけでなく、四季の庭、子どもの森等の諸施設が整っている。
三木山森林公園	三木市	三木市の中心部にある、甲子園球場のおよそ 20 倍、80 万平方メートルの広大な公園。四季折々の豊かな自然の中で、森の大切さを肌で感じられる場所。
東条湖おもちゃ王国	加東市	子どもがワクワクするものを集めた「おもちゃ王国」。ウォーターパークのほか、約 20 種のアトラクション、9 館のおもちゃのお部屋と 3 つの遊び場が揃っている。

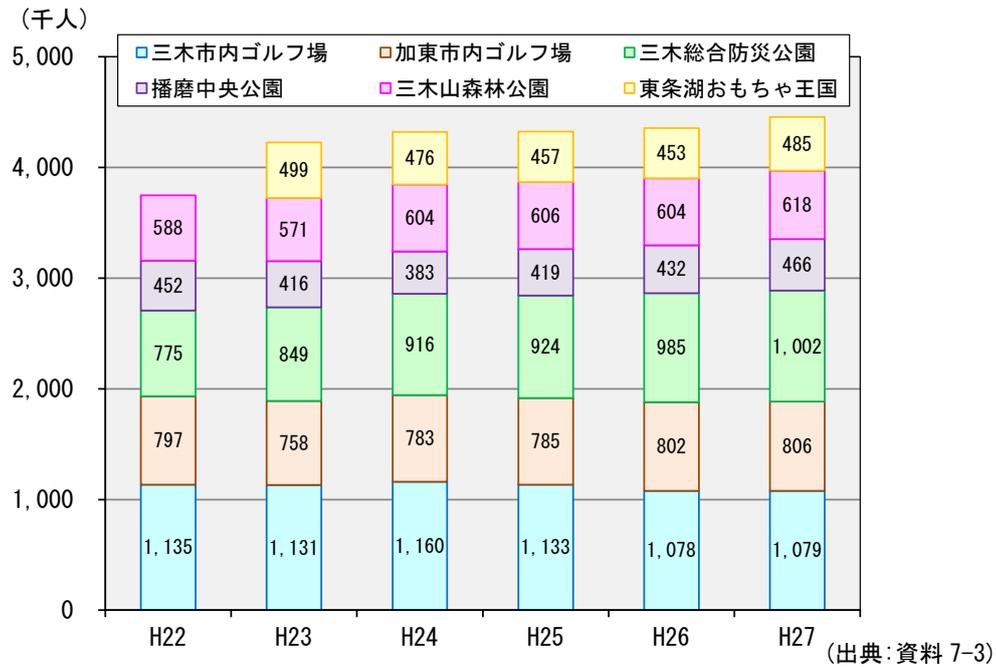
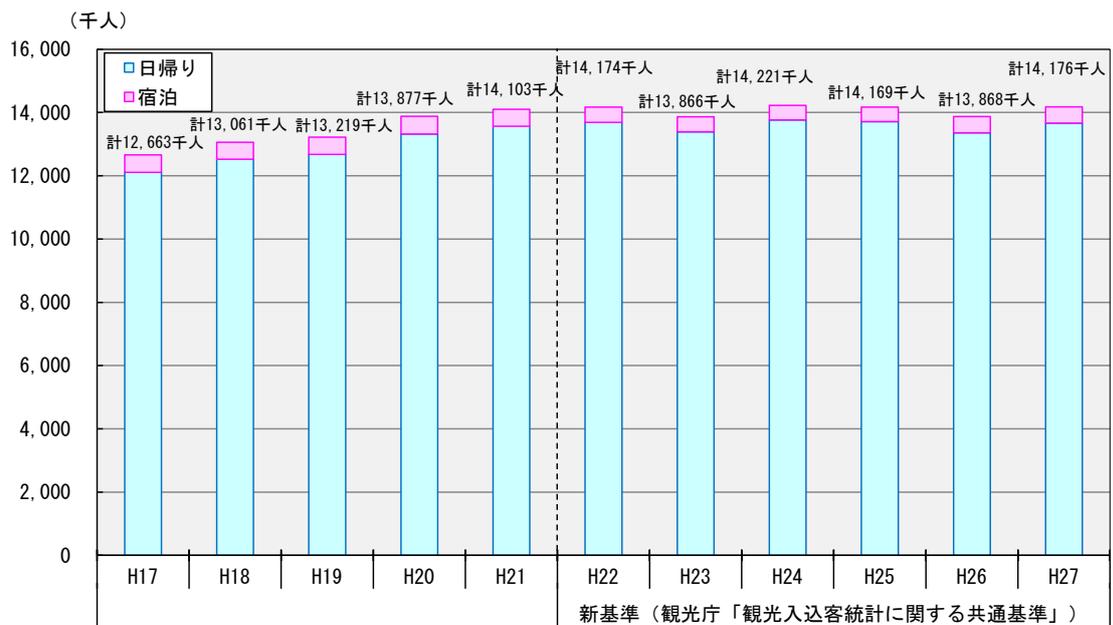


図 7.2-5 北播磨地域の主要観光地における経年観光客入込数の推移



(出典: 資料 7-3)

図 7.2-6 北播磨地域の経年観光客入込数の推移

3) 中播磨地域

平成 22 年度以降に統計の対象となっている「中播磨地域」の主要な観光地を表 7.2-4、主要観光地における経年観光客入込数の推移を図 7.2-7、「中播磨地域」全体の経年観光客入込数の推移を図 7.2-8に示す。

「中播磨地域」の主要な観光地としては、「姫路城」、「姫路市立動物園」、「姫路セントラルパーク」等が上げられた。

「中播磨地域」において、平成 22 年度以降では、いずれの年も最も観光客入込数が多い観光地は、世界遺産にも指定されている「姫路城」で、特に平成 27 年度に「平成の修理」が終わり、城内の内部公開が再開されてため、前年度の 919 千人に対し、2,867 千人と約 3.1 倍の数値の増加がみられた。「姫路城」近くにある「姫路市立動物園」も、前年度の 487 千人に対し、759 千人と約 1.6 倍、「好古園」も、前年度の 198 千人に対し、前年度の 523 千人と約 2.6 倍と相乗効果がみられた。

「中播磨地域」全域での日帰りと宿泊の観光客入込数では、合計値が、平成 21 年度の 1,083 万人から平成 22 年度の 866 万人と大きく減少しているが、前述したように観光客入込数の算出法が変更起因するものと考えられる。平成 22 年度以降は、平成 26 年度までは、僅かずつの増加傾向であるが、平成 27 年度に顕著に増加しており、「姫路城」の「平成の修理」後の内部公開の影響が大きく表れているものと考えられる。

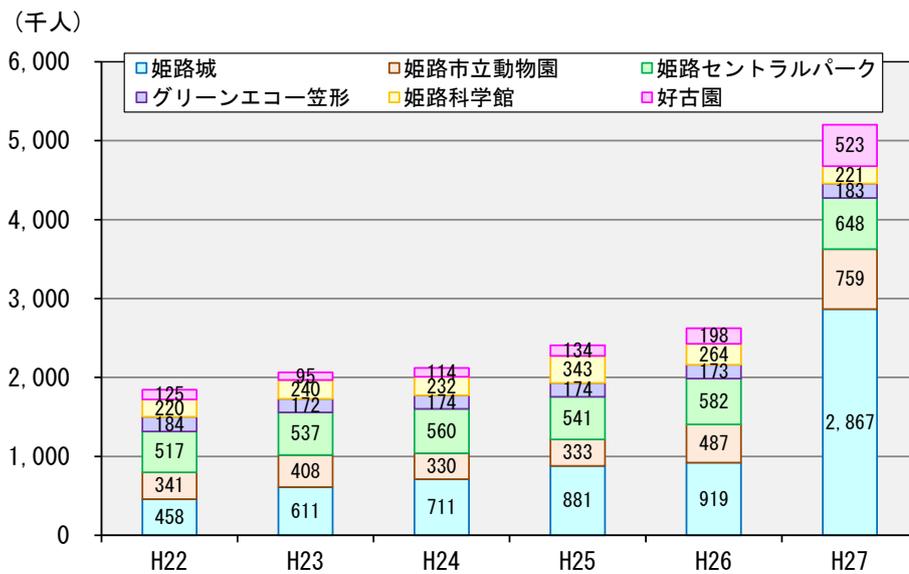
「中播磨地域」の日帰りと宿泊の割合をみると、日帰りの観光客入込数が大部分の約 95% を占めていた。

合計値が、いずれの年も 1,200 万人を超える状況で推移し、経年で大きな変化はないが、平成 21 年度以前と平成 22 年度以後では、前述したように観光客入込数の算出法が変更になっている。平成 22 年度以降は、約 1,300 万人以上の横ばいで推移しており、大きな変化はない。日帰りと宿泊の割合をみると、平成 22 年度以降では日帰りの観光客入込数の割合が 65.5% から 91.6% と、他の地域と比べ低く、遠隔地からの訪問者も多いことを示唆していた。

「中播磨地域」の観光客動態の整理結果を踏まえると、「中播磨地域」にある観光地への訪問者は、地域の地元の人々に加え、遠隔地の人々も比較的に多く、当該地区を訪問しており、特に、地域の観光状況には、世界遺産である「姫路城」の存在が非常に大きいと考えられた。

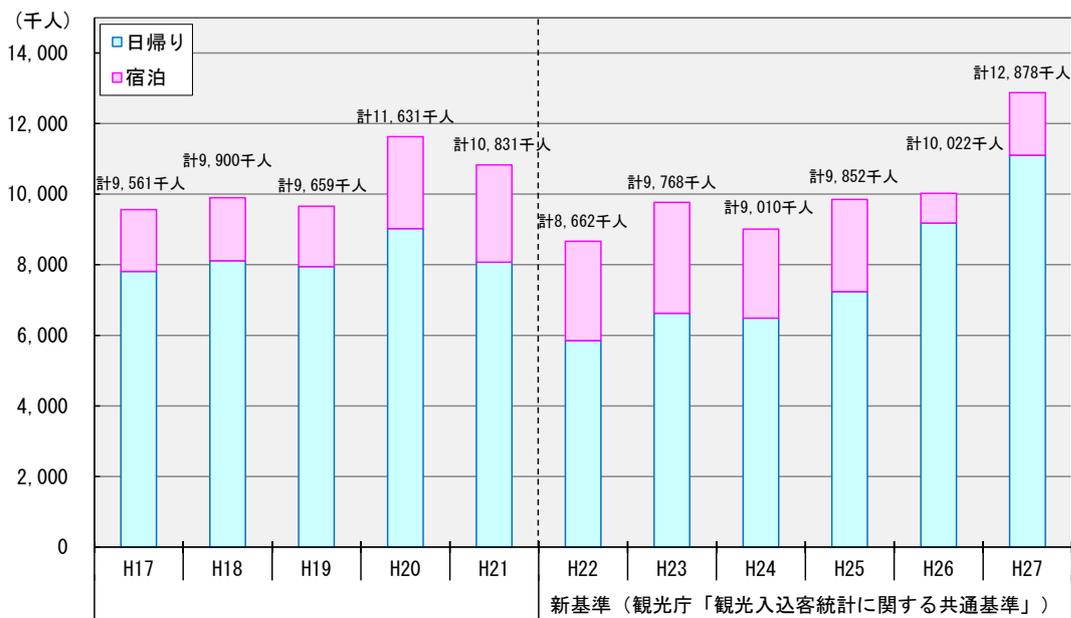
表 7.2-4 中播磨地域の主要な観光地

観光地名称	所在地	概要
姫路城	姫路市	平成 5 年 12 月奈良の法隆寺とともに日本で初の世界文化遺産となった。「平成の修理」が終わった今、多くの観光客を集めている。
姫路市立動物園	姫路市	「お城の中の動物園」として年配の方から子どもまで親しまれている。子どもを対象とした遊戯施設も多く設置されている。
姫路セントラルパーク	姫路市	サファリパークと遊園地の複合施設。園内にはプールやアイススケート場もあり、様々な楽しみ方ができるレジャー施設となっている。
グリーンエコー笠形	神河町	キャンプ場やウッドハウス、コテージ、多目的グラウンド、体育館のほか、光明石準天然温泉と設備が充実した施設。四季折々のアウトドアイベントで賑わう。
姫路科学館	姫路市	たくさんのオリジナル展示装置で「実験体験」し、実物資料で「本物体験」ができる科学館。世界最大級直径 27m のドームをもつプラネタリウムで満天の星も楽しめる。
好古園	姫路市	世界遺産・姫路城を借景にした本格的な日本庭園。江戸の情緒を醸し出すそのたたずまいは時代劇や大河ドラマのロケ地としても使われている。



(出典:資料 7-3)

図 7.2-7 中播磨地域の主要観光地における経年観光客入込数の推移



(出典:資料 7-3)

図 7.2-8 中播磨地域の経年観光客入込数の推移

4) 丹波

平成 22 年度以降に統計の対象となっている「丹波地域」の主要な観光地を表 7.2-5、主要観光地における経年観光客入込数の推移を図 7.2-9、「丹波地域」全体の経年観光客入込数の推移を図 7.2-10に示す。

「丹波地域」の主要な観光地としては、「丹波年輪の里」、「丹波の森公苑」、「道の駅丹波おばあちゃんの里」等が上げられた。

「丹波地域」においては、「道の駅丹波おばあちゃんの里」が、平成 24 年度以降、統計の対象となり、以降、いずれの年も観光客入込数が 340 千人を超える状況で推移しており、当該地域内では最も高い数値であった。平成 23 年度以前では、「丹波の森公苑」が当該地域内では 240 千人を超える状況で、数値は最も高い数値であった。また、平成 24 年度以降も、「丹波の森公苑」の観光客入込数に大きな変化はない。

「丹波地域」全域での日帰りと宿泊の観光客入込数では、合計値が平成 17 年度から平成 21 年度では 500 万人を超える観光客入込数で推移していたが、平成 22 年度は約 430～440 万人となり、約 60～70 万人の減少となったが、前述したように観光客入込数の算出法が変更になったことに起因すると考えられる。平成 23 年度以降は、約 430 万人以上の横ばいで推移しており、大きな変化はない。日帰りと宿泊の割合をみると、日帰りの観光客入込数の割合が、大部分の約 95%を占めていた。

「丹波地域」の観光客動態の整理結果を踏まえると、「丹波地域」にある観光地への訪問者は、遠隔地の人々よりも、比較的に地域の地元の人々が多く、全体の数値が横ばいに推移している状況を踏まえると、リピーターとして利用している可能性が高いと考えられる。

表 7.2-5 丹波地域の主要な観光地

観光地名	所在地	概要
丹波年輪の里	丹波市	木とのふれあえるクラフトなどの文化活動や、スポーツ・レクリエーション活動のできる場。他、兵庫県と交流のあるロシアのハバロフスク地方の資料等を展示。
丹波の森公苑	丹波市	兵庫県が設置した広域拠点で、アトリエや生活創造センターなど真の豊かさの実現に向けたライフスタイルの創造や地域づくりを支援している。
道の駅丹波おばあちゃんの里	丹波市	癒し、健康・環境がテーマの丹波市の玄関口の施設。「来る人に安らぎを、住む人にうらおいを」を与える、誰もが親しめる賑わいの場となっている。
丹波篠山味まつり	篠山市	毎年「丹波篠山黒大豆」がみのる時期に開催する、篠山の味覚を堪能できるイベント。味覚だけでなく、歴史が色濃く残る町なみや緑あふれる景色が楽しめる。
デカンショ祭	篠山市	毎年 8 月に開催される約 60 年続いている祭。祭りの際に歌われる「デカンショ節」の総踊りが特徴。
ぬくもりの郷	篠山市	源泉掛け流しのこんだ薬師温泉に農業公園を併設している施設。農業公園は無料で利用することができ、ハイキングやピクニックを楽しむことができる。

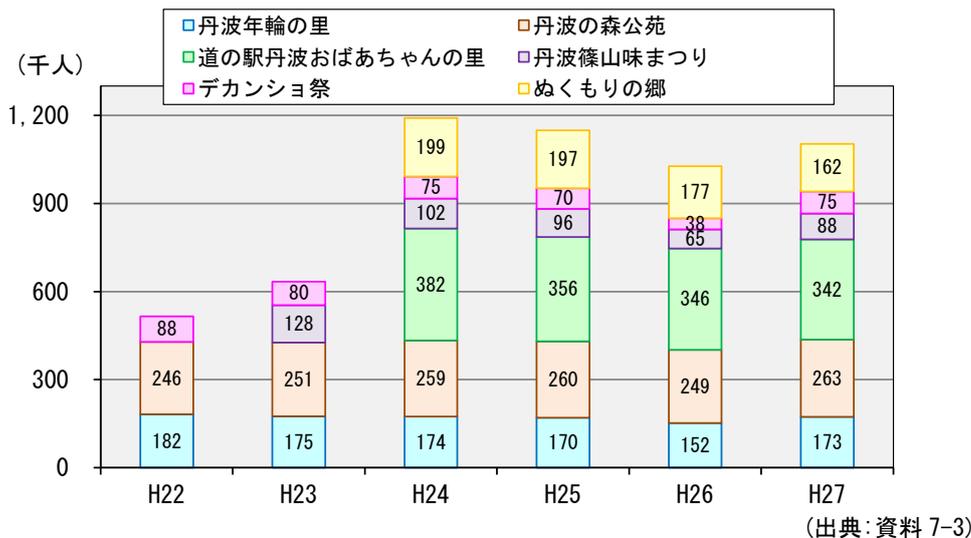


図 7.2-9 丹波地域の主要観光地における経年観光客入込数の推移

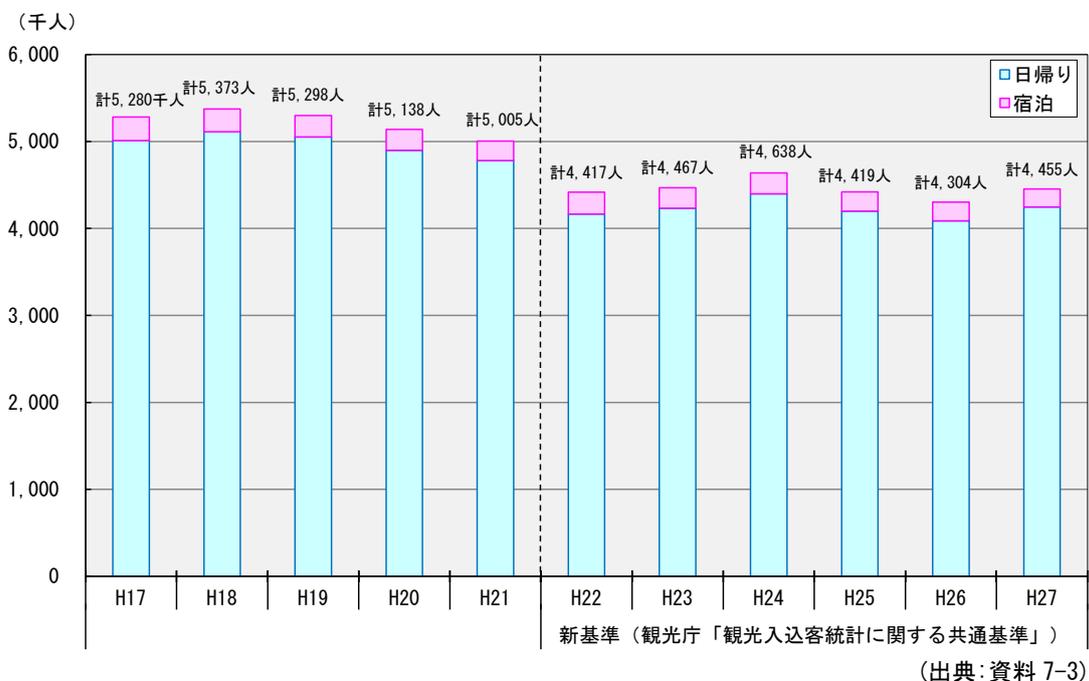


図 7.2-10 丹波地域の経年観光客入込数の推移

5) まとめ

加古川大堰周辺では、姫路市に位置する世界遺産の「姫路城」が最大の観光地であり、「平成の改修」を終えた平成 27 年以降は、地域の人々のみならず、遠隔地の人々も多く集客しており、周辺への影響も大きいものと考えられる。ただし、加古川大堰の流域自治体である加古川市や高砂市までへの影響は及んでいない可能性が高い。

加古川大堰の流域自治体である加古川市および高砂市が含まれる「東播磨地域」の観光地は、地域の人々を中心に集客しており、観光地への訪問者数にも大きな変化はないため、観光地を訪問する人々には、リピーターも多い状況である可能性が高い。

加古川大堰周辺の広域での観光客数は、基本的には減少傾向はなく、「中播磨地域」を除き、日帰り可能な広域地域内での往來に限定される傾向がみられる。

7.3 堰事業と地域社会情勢の変遷

加古川大堰関連事業と地域社会情勢との変遷の概況を表 7.3-1に示す。

加古川市の社会基盤整備は、昭和 40 年代頃までに急速に進められ、加古川大堰の建設も昭和 50 年代より開始している。

平成元年に加古川大堰が管理を開始してからは、貯水池を利用した漕艇利用(レガッタなど)や加古川河川敷を利用したイベント活動(マラソン大会、ウォーキング大会等)も盛んに行われている。

表 7.3-1 (1) 加古川大堰事業と地域(加古川市)社会情勢の変遷

年	加古川大堰関連事業	住民活動・交流活動 地域の出来事	その他
昭和 40 年 代まで	S25		6月 加古川市 市制施行
	S27		7月 豪雨による水害(床上・床下浸水 2,918 戸)
	S28	8月 第1回川まつり開催	4月 上水道の給水はじまる
	S33		4月 山陽本線、明石~姫路間電化開通
	S35		4月 上荘橋竣工
	S40		9月 台風 23 号襲来、災害救助法適用
	S41		7月 加古川工業用水道平荘湖竣工
	S42		1月 臨海部の埋め立てはじまる
	S43	3月 予備調査実施	
S45			3月 播磨国道(加古川バイパス)開通
S50 ~60 年代	S51		12月 加古川河川敷公園内のテニス、バレーコート開放 12月 第1回農業祭
	S54	2月 実施計画調査	
	S55	11月 工事用道路付替工事を開始	
	S56	3月 基本計画告示 11月 大堰本体工事着手	
	S59	10月 本体が概成する	
	S60	10月 美の川落差工築造工事の着手 11月 草谷川水門築造工事に着手	
	S61	11月 五ヶ井堰の撤去工事に着手	
	S62	4月 試験湛水を開始	
平成元年 ~	H元	4月 加古川大堰管理開始 7月 竣工式	
	H2		2月 第1回加古川マラソン大会を開催 11月 第1回加古川ツデーマーチを開催 11月 第1回関西学生・加古川レガッタを開催
	H6		11月 ツデーマーチを日本マーチングリーグ公式大会として開催
	H7		8月 「全国川サミット in 加古川」を開催 1月 阪神・淡路大震災が発生
	H8		4月 加古川大堰右岸に加古川市立漕艇センターを開設
	H12		6月 ウェルネス都市を宣言 6月 加古川河口付近の土砂採掘工事を開始
	H13		1月 2世紀マラソンを開催
	H17		3月 JR 山陽本線等の加古川駅周辺の高架化が完成

表 7.3-1 (2) 加古川大堰事業と地域(加古川市)社会情勢の変遷

年	加古川大堰関連事業	住民活動・交流活動 地域の出来事	その他
H24	4月 「曇川排水機場」を新築移転	8月 「加古川まつり花火大会」を開催。	7月 「加古川みなもロード」活用に期間限定の助成金を初めて支給
H26		6月 加古川上流から下流にかけてウナギを800匹放流 12月 加古川上流でヘラブナを2万匹放流	
H28	8月 新「曇川排水機場」が完成 12月 城山排水池を更新 3月 土砂の採掘工事のため、加古川大堰放流	11月 「加古川 BBQ フェス」が初開催	

※近5ヵ年（平成24年度以降の内容は、新聞記事等を参考に整理した。）

(出典:資料 7-4, 7-5)

7.4 堰と地域の関わりに関する評価

7.4.1 地域における堰の位置づけに関する整理

(1) 加古川市総合計画(平成28年版)

加古川市では、平成32年を目標年次とした「加古川市総合計画」を平成22年3月に策定し、その後の平成28年3月に、人口減少社会の到来や少子高齢化の進行等の重要な課題を踏まえ、見直しを行い、「後期総合基本計画」を策定している。

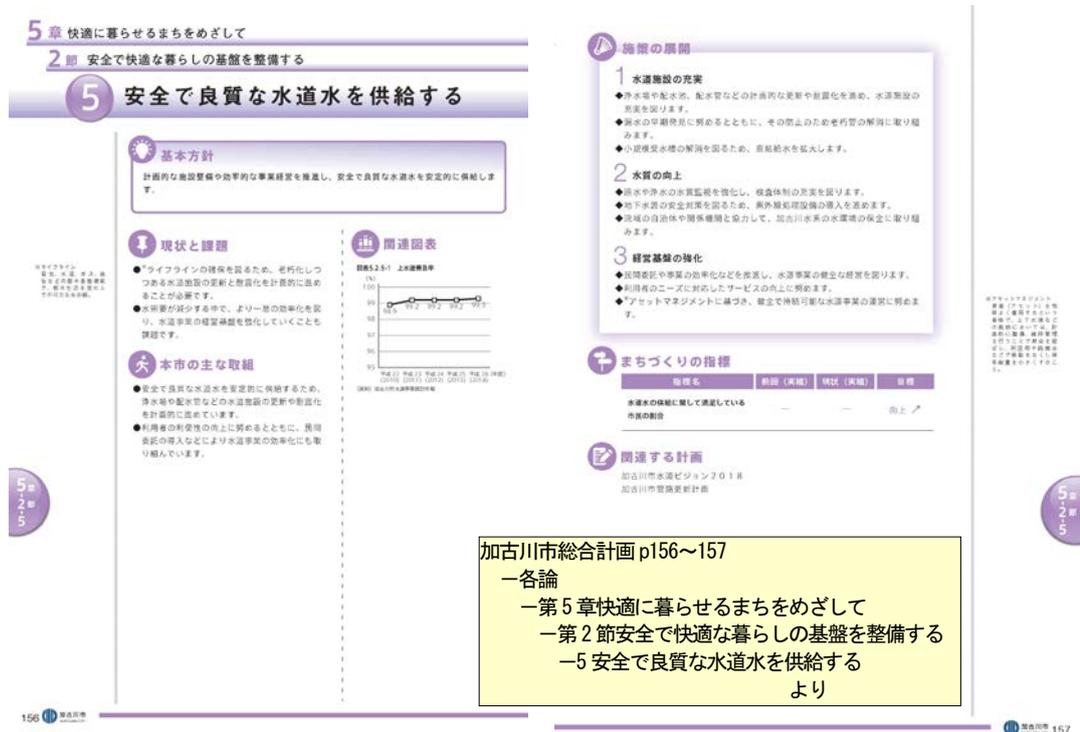
加古川大堰に関わる内容として、「安全で良質な水道水の供給」、「スポーツ・レクリエーション活動の推進」が挙げられており、加古川および加古川大堰が、今後の加古川市にとって重要な役割を担っていると考えられる。

1) 安全で良質な水道水の供給

加古川市総合計画における「安全で良質な水道水の供給」に係る該当ページを図7.4-1に示す。

加古川大堰から取水した水を水源の一部として市内に水供給を行う「中西条浄水場」を含む水道施設について、水道施設の更新や耐震化など計画的な施設整備や効率的な事業経営を推進することで、安全で良好な水道水の供給をめざしている。

また、後期総合基本計画での大きな改正点は、まちづくりの指標が、前期は数値目標が設定されていたのに対し、数値目標が設定されていない点である。



(出典:資料7-5)

図 7.4-1 安全で良質な水道水の供給に関する計画(総合計画より転記)

2) スポーツ・レクリエーション活動の推進

加古川総合計画における「スポーツ・レクリエーション活動の推進」に係る該当ページを図7.4-2に示す。

「心豊かに暮らせるまちをめざして」の各論のうち、スポーツや文化・芸術の振興に関する計画において、加古川大堰周辺や貯水池が利用される「加古川ツーデーマーチ」、「加古川マラソン」、「加古川市民レガッタ」などのイベントの開催を通じ、市民の健康づくりや余暇活動の充実に努めていることが述べられている。

今後もスポーツ・レクリエーション活動の普及・促進やスポーツ・レクリエーション施設の整備・活用が施策として掲げられており、加古川大堰は、今後も地域におけるスポーツ拠点として重要な役割を担い、憩いの場、交流の場として活用されることが期待されている。

また、後期総合基本計画での大きな改正点は、まちづくりの指標が、前期は指標が2項目設定されていたのに対し、後期は1項目になっている。目標値の変更はない。

2章 心豊かに暮らせるまちをめざして
3節 スポーツや文化・芸術を振興する
1 スポーツ・レクリエーション活動を推進する

基本方針
 市民の誰もが、生涯にわたり、年齢、体力、技能に応じて、スポーツ・レクリエーションを楽しめる環境の充実を図ります。

現状と課題
 ●社会・生活環境の変化により、健康意識やスポーツへの関心が高まっており、「健康寿命の延伸を図る」ことが可能な社会の実現が求められています。
 ●市民誰もがスポーツに親しむことができるよう、市民ニーズに対応したスポーツ・レクリエーション施設を普及・促進する必要があります。
 ●身近なスポーツ施設の整備を促進するため、既存施設の効率的・効果的な運営を促進するとともに、計画的な整備に取り組む必要があります。

本市の主な取組
 ●日本の重要なウェーキング大会の一つである加古川ツーデーマーチをはじめ、加古川マラソンや加古川市民レガッタなどのイベントを開催しています。
 ●加古川市スポーツネットワークを基盤として、各地域でのスポーツ・レクリエーション活動を促進するなど、「ウエルネス都市 加古川」の実現に向けて、市民の健康づくりや余暇活動の充実に努めています。
 ●身近なスポーツを親しむことができる場所として、スポーツ・レクリエーション施設や学校体育施設の効率的活用を促進するとともに、遊歩道の整備や夜間照明を計画的に進めています。

推進の展開
1 スポーツ・レクリエーション活動の普及・促進
 ●スポーツ関係団体などのネットワーク化を推進し、市民の健康づくりをサポートする体制づくりに努めます。
 ●誰もがスポーツに参加できる機会の拡充を図るとともに、競技力の向上を促す環境づくりに努めます。
 ●市内のトップレベルで活躍するチームと連携して、「ふる」スポーツの魅力を高めるとともに、身近な人のスポーツ活動を促す機会や場の提供に努めます。
 ●スポーツ・レクリエーションに携わる指導者やボランティアを育成するとともに、活動の場を提供します。
2 スポーツ・レクリエーション施設の整備・活用
 ●スポーツ・レクリエーション施設の管理運営については、「指定管理者制度」として民間活力の導入により、効果的・効率的な事業運営を図ります。
 ●既存施設の整備・改善を計画的に進め、活用を促進します。

まちづくりの指標

項目名	計画（前期）	現状（前期）	目標
スポーツ・レクリエーション活動の参加率に向上を促している	54.6%	51.6%	58.0%
市民の割合	(平成20年度)	(平成20年度)	(平成22年度)

関連する計画
 加古川市スポーツ振興基本計画
 加古川市スポーツ振興基本計画アクションプラン

加古川市総合計画 p104～105
 - 第2編各論
 - 第2章心豊かに暮らせるまちをめざして
 - 第3節スポーツや文化・芸術を振興する
 - 1 スポーツ・レクリエーション活動を推進するより

(出典:資料7-5)

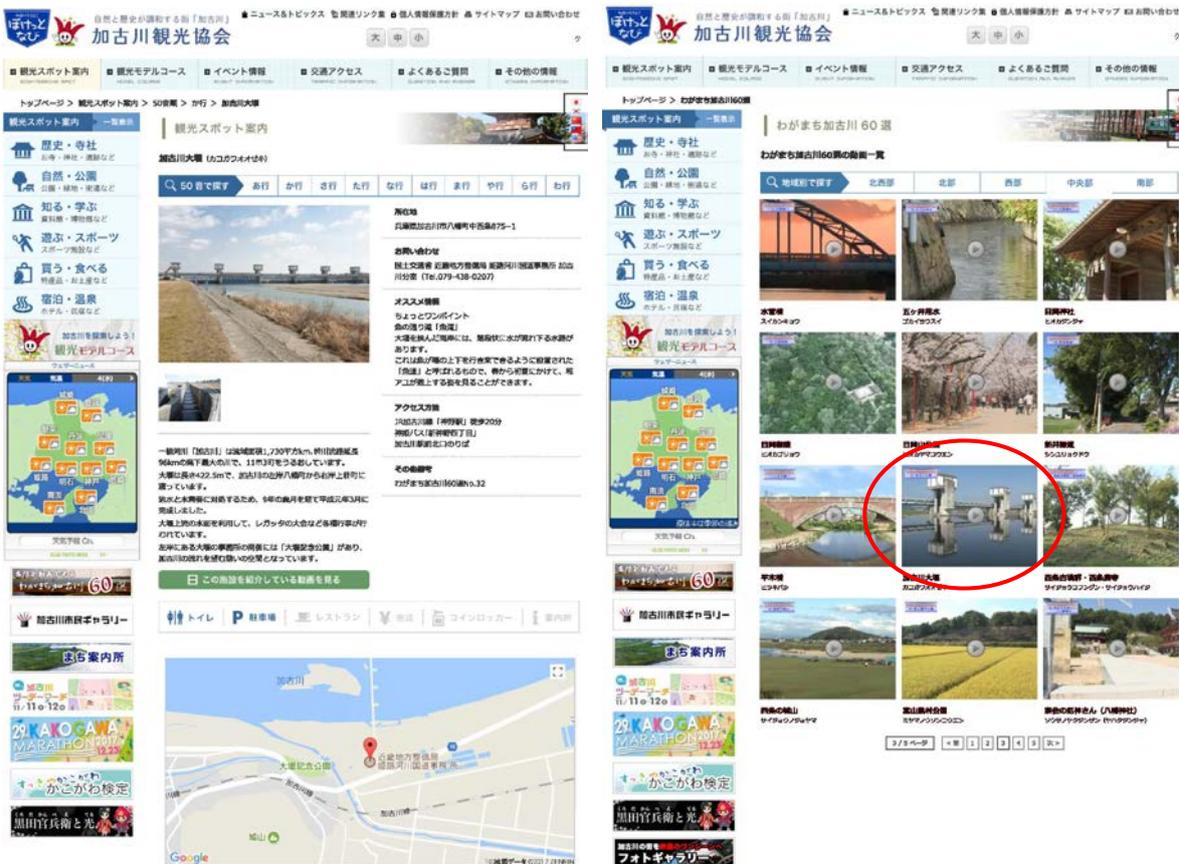
図 7.4-2 スポーツ・レクリエーション活動の推進に関する計画(総合計画より転記)

(2) わがまち加古川 60 選

加古川観光協会ホームページ (<http://kako-navi.jp/selection>) で紹介されている加古川大堰の紹介の様子を図 7.4-3 に示す。

加古川市では、「わがまち加古川 60 選」として、市民が自慢できる自然や街角、うるおいとやすらぎが感じられる場所を選んだ場所の一つとして、加古川大堰を選定している。加古川観光協会が公開するホームページ (<http://kako-navi.jp/>) で、加古川市の観光地（スポット）案内の中で、「加古川大堰」が紹介されている。

加古川大堰は、地域の観光資源としても認識、位置付けられている。



【ホームページでの加古川大堰の紹介分】
 一級河川「加古川」は流域面積 1,730km²、幹川流路延長 96km の県下最大の川で、8 市 17 町をうるおしています。大堰は長さ 422.5m で、加古川の左岸八幡町から右岸上荘町に渡っています。治水と水需要に対処するため、9 年の歳月を経て平成元年 3 月に完成しました。大堰上流の水面を利用して、レガッタの大会など各種行事が行われています。左岸にある大堰の事務所（建設省大堰詰所）の南側には「大堰記念公園」があり、加古川の流れを望む憩いの空間となっています。

(出典:資料 7-6)

図 7.4-3 加古川観光協会ホームページにおける加古川大堰の紹介の様子

(3) 地域における堰の位置づけに関する整理

地域における加古川大堰の位置付けの概念図を図 7.4-4 に示す。

加古川市は、平成 28 年に策定した「加古川市総合計画」の中で、基本理念について、従来の「ひと・まち・自然を大切にし、ともにはぐくむまちづくり」から、将来の都市像を踏まえ、「いつまでも住み続けたいウェルネス都市 加古川」へと位置付けている。

「加古川市総合計画」の中で、加古川大堰に係る具体的な記載はないものの、総合計画の主旨より、安全で良質な水道水の供給やスポーツ・レクリエーション活動の推進では、大堰は重要な役割を担っており、地域への貢献が要望されるものと考えられる。

よって、加古川大堰は、地域への重要な水供給源として機能するだけでなく、河川敷や湖面など地域の憩いの場、交流の場としての役割を果たすべく、日常の管理を通じ貢献してゆく必要がある。

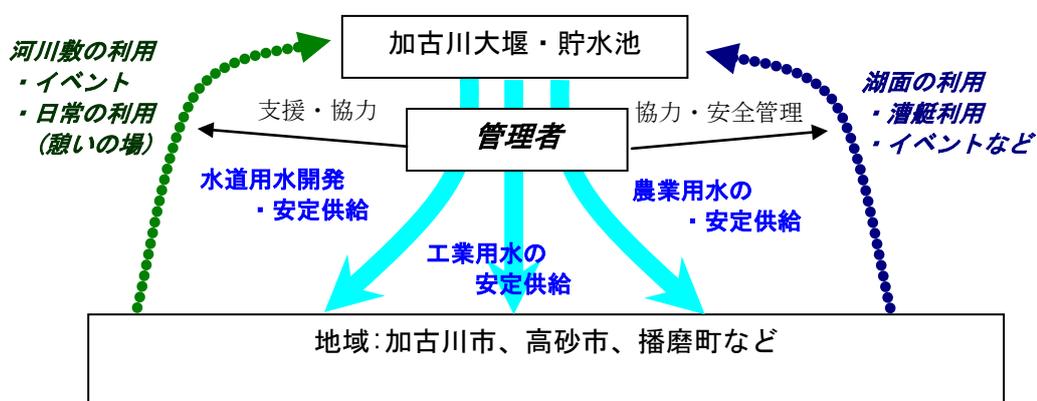


図 7.4-4 地域における加古川大堰の位置づけ

7.4.2 地域と堰管理者の関わり

(1) イベントの開催・協力

近5カ年の加古川大堰周辺でのイベントの開催状況の表 7.4-1 に、堰周辺で実施されたイベントの様子を図 7.4-5 に示す。

加古川大堰周辺では、毎年多くのイベントが開催されており、堰の貯水池を利用した漕艇のイベントも数多く開催されている。漕艇のイベントとして、代表的なものは、加古川市民を含む一般市民団体が参加する「加古川市民レガッタ」や学生の選手権大会でもある「加古川レガッタ」等が挙げられる。

堰管理者は、イベント会場を提供するだけでなく、運営協力、安全管理などを行い、主催者や地域との連携を図っている。

表 7.4-1 加古川大堰貯水池を利用したイベント実施状況(平成 24～28 年度実績)

開催年	開催日	イベント名	参加人数	主催
H24	6/19	兵庫県体育大会+市長杯大会（一部）	250人	兵庫県ボート協会
	8/6～8/7	加古川市民レガッタ	2,000人	加古川レガッタ事業実行委員会
	9/11	オールドカップボート大会	410人	加古川市立漕艇センター
	10/1	神戸製鋼親睦レガッタ大会	230人	神戸製鋼労働組合
	11/4～11/6	加古川レガッタ（関西学生秋季選手権）	2,100人	加古川レガッタ事業実行委員会
	12/23	第24回加古川マラソン	5,034人	兵庫県マラソン大会実行委員会
H25	3/20	第1回加古川らんらんマラソン	450人	龍野マウンテンバイク協会
	4/2～4/4	第67回兵庫県民体育大会（少年の部）	237人	兵庫県・県体育協会・県教育委員会
	4/21	第3回スプリングカップボート大会	250人	加古川漕艇センター
	5/12	第15回加古川市長杯ボート競技大会	248人	加古川ボート協会
	6/22～6/23	東京国体代表選考会	52人	兵庫県・県体育協会・県教育委員会
	8/3～8/4	第20回加古川市民レガッタ	2,200人	加古川レガッタ実行委員会
	9/22	第4回オールドカップ大会	252人	加古川漕艇センター
	11/1～11/3	第24回関西学生秋季選手権加古川レガッタ	2,550人	加古川レガッタ事業実行委員会
	11/9～11/10	第24回加古川ツテ-マーチ	9,006人	加古川ツテ-マーチ実行委員会 (社)日本ウォーキング協会 (般社)加古川青年会議所
	12/1	第27回高砂マラソン	1,250人	高砂市体育協会 高砂マラソン実行委員会
12/23	第25回加古川マラソン	5,399人	兵庫県マラソン大会実行委員会	
H26	4/2～4/4	第68回兵庫県民体育大会（少年の部）	261人	兵庫県・県体育協会・県教育委員会
	4/20	第4回スプリングカップボート大会	250人	加古川漕艇センター
	5/11	第16回加古川市長杯ボート競技大会	220人	加古川ボート協会
	6/21～6/22	長崎国体代表選手権選考会	224人	兵庫県・県体育協会・県教育委員会
	7/26～7/27	第21回加古川市民レガッタ	1,200人	加古川市レガッタ事業実行委員会
	9/28	第5回オールドカップボート大会	180人	加古川漕艇センター
	10/4	第10回神鋼社内親睦レガッタ大会	2,500人	加古川市レガッタ事業実行委員会
	12/23	第26回加古川マラソン	5,639人	兵庫県マラソン大会実行委員会
H27	4/19	第5回KAKOGAWAスプリングカップボート大会	300人	加古川漕艇センター
	5/24	第17回加古川市長杯ボート競技大会	280人	加古川ボート協会
	6/20～6/21	和歌山国体代表選手権選考会	100人	兵庫県・県体育協会・県教育委員会
	7/25～7/26	第22回加古川市民レガッタ	1,250人	加古川市レガッタ事業実行委員会
	8/22	第9回関西熱化学グループレガッタ大会	600人	関西熱化学（株）
	9/6	第69回県民大会兼第3回加古川ボート協会会長杯大会	200人	加古川ボート協会
	9/13	第6回KAKOGAWAオールドカップボート大会with県民大会	300人	加古川漕艇センター
	11/6～11/8	第26回関西学生秋季選手権加古川レガッタ	2,600人	加古川市レガッタ事業実行委員会
	11/14～11/15	第26回加古川ツテ-マーチ	7,465人	加古川ツテ-マーチ実行委員会
	12/23	第27回加古川マラソン	5,199人	兵庫県マラソン大会実行委員会
H28	4/24	KAKOGAWAスプリングカップボート大会	350人	加古川漕艇センター
	6/5	第18回加古川市長杯ボート競技大会	180人	加古川ボート協会
	6/18～6/19	いわて国体代表選手権選考会	60人	兵庫県・県体育協会・県教育委員会
	7/30～7/31	第23回加古川市民レガッタ	960人	加古川市レガッタ事業実行委員会
	8/27	第10回関西熱化学グループレガッタ大会	500人	関西熱化学（株）
	9/11	第7回KAKOGAWAオールドカップボート大会with県民大会	230人	加古川漕艇センター・兵庫県ボート協会
	11/4～11/6	第27回関西学生秋季選手権加古川レガッタ	2,450人	加古川市レガッタ事業実行委員会
	11/12～11/13	第27回加古川ツテ-マーチ	8,258人	加古川ツテ-マーチ実行委員会
	12/23	第28回加古川マラソン	5,516人	兵庫県マラソン大会実行委員会

(出典:資料 7-7)

■加古川市民レガッタ



参考) 平成 28 年度の加古川漕艇センターの利用状況

- ・年 7 回のイベントで約 4730 人が利用。

- ・主なイベントは、「第 22 回 加古川市民レガッタ」、「第 27 回 関西学生秋季選手権加古川レガッタ」等。

■加古川マラソン



参考) 平成 28 年度の実施状況

- ・加古川マラソンは 28 回目で、5,516 人[※]が参加。

- ※数値は、「平成 28 年度版 加古川市統計書」を参照。

■加古川ツーデーマーチ



参考) 平成 28 年度の実施状況

- ・加古川ツーデーマーチは 27 回目で、8,258 人[※]が参加。

- ※数値は、「平成 28 年度版 加古川市統計書」を参照。

- ・ツーデーマーチは、加古川河川敷マラソンコース（加古川みなもロード）を活用したウォーキングイベント。

(出典:資料 7-7)

図 7.4-5 (1) 加古川大堰周辺でのイベントの様子 (平成 28 年度)

○加古川ツーデーマーチ



※「広報かこがわ 平成29年1月」より掲載。

○加古川マラソン



※「広報かこがわ 平成29年2月」より掲載。

○環境学習会



※「広報かこがわ 平成28年9月」より掲載。

○環境学習会の概要

- ・加古川水系河川整備計画に基づく、地域連携プログラムによる加古川市在住の小学生とその保護者、NPO 法人「播磨ウェットランドリサーチ」、加古川市、国土交通省の合同の水生生物調査。
- ・加古川大堰下流やその支流の草谷川で実施。

(出典:資料7-8)

図 7.4-5 (2) 加古川大堰でのイベントの様子

(2) 見学会の実施

加古川大堰への見学者数等の経年の推移を図 7.4-6 に、見学会の様子を図 7.4-7 に示す。

加古川大堰周辺にある小中学校では、堰への見学会を、総合学習の一環と位置付けており、毎年、多くの生徒の訪問を受け入れている。平成 28 年度では、平岡小学校、陵北小学校、尾上小学校等の 14 学校に対して、見学会を受け入れており、年毎の延べ見学者数は、年により人数に増減はあるものの、1,000 人以上を超える状況が続いている。

加古川大堰では、見学者の年齢に応じて、「利水・治水」としての役割や機能、地域における位置付け等をわかりやすく説明するよう心掛けている。大堰が「水の大切さ」、「環境の大切さ」を学ぶ地域の間として機能することが重要と考えている。



※環境学習会は、見学会とは別途に、地域の河川への関心の向上および環境情報の蓄積に寄与することを目的に、地域と連携・協働して、平成 25 年度より開催している。

(出典: 資料 7-7、7-9)

図 7.4-6 加古川大堰の見学者数の推移 (平成 19 年～平成 28 年)



参考) 平成 28 年度の主な実績: 計 1,095 名
 小学校: 14 校、高等学校: 1 校、一般: 3 団体、県主催の社会見学ツアー: 3 回

(出典: 資料 7-7)

図 7.4-7 加古川大堰での見学会の様子

(3) 環境学習会の実施

環境学習会開催の案内例を図 7.4-8 に、環境学習会の様子を図 7.4-9 に示す。

加古川大堰では、平成 25 年度より、大堰周辺の環境把握において地域と連携した調査を実施することにより、地域の環境学習の推進と協働した環境調査の実施、地域の河川への関心と啓発及び環境情報の蓄積への寄与を目的に、環境学習会を開催している。

環境学習会の対象は、堰周辺の小学校に通う小学 4 年生から 6 年生及びその保護者または引率者としている。

環境学習会では、調査項目と下記の項目を設定し、学習会参加者と協働で実施している。

- 水生生物採捕：投網、タモ網、定置網等による採捕（種の同定等）
- 物理環境：水温、透視度、水深、川底の状態、流速、濁り、臭い等

環境学習会の場所は、大堰の下流付近と下流の支川である草谷川合流部付近としている。

平成 28 年度までに 4 回の環境学習会を実施しており、平成 25 年度は 12 名、平成 26 年度は 26 名、平成 27 年度は 60 名、平成 28 年度は 22 名が参加している（「図 7.3-5」を参照）。平成 28 年度の参加者数が、前年度と比較し、大幅に減少した原因としては、開催日が「加古川市民レガッタ」の開催日と重複したことが挙げられる。

今後も、継続的に環境学習会を実施することで、地域の河川への関心と啓発及び環境情報の共有を図る場、加えて、外来種対策等の啓発の重要性を理解する場を提供することが重要と考えている。



(出典：資料 7-9)

図 7.4-8 環境学習会開催の案内例（平成 28 年度版）



参考) 平成 28 年度の実績 : 計 22 名

○調査の概要

加古川水系河川整備計画に基づく、地域連携プログラムによる加古川市在住の小学生とその保護者、NPO 法人「播磨ウェットランドリサーチ」、加古川市、国土交通省の合同の水生物調査で、加古川大堰下流やその支流の草谷川で実施。

(出典:資料 7-9)

図 7.4-9 環境学習会の様子

(4) 地域への情報提供

加古川大堰の広報用資料等を図 7.4-10 に、ダムカードの配布状況を図 7.4-11 に示す。

加古川大堰では、パンフレット、ダムカードのほか、姫路河川国道事務所のホームページ (<https://www.kkr.mlit.go.jp/himeji/index.php>) を通じて、地域や来訪者に向けた情報提供を行っている。

加古川大堰でも、他ダムと同様にダムカードの配布を平成 22 年 2 月より実施している。平成 26 年度以降、年間の配布枚数は 500 枚以上と顕著に増加し、累計配布枚数は平成 28 年度までに 2,466 枚に達している。

今後も広報資料等を活用しつつ、地域や来訪者に適切かつ丁寧な情報提供を行うことが重要と考えている。

■パンフレット等



■ホームページ(姫路河川国道事務所)

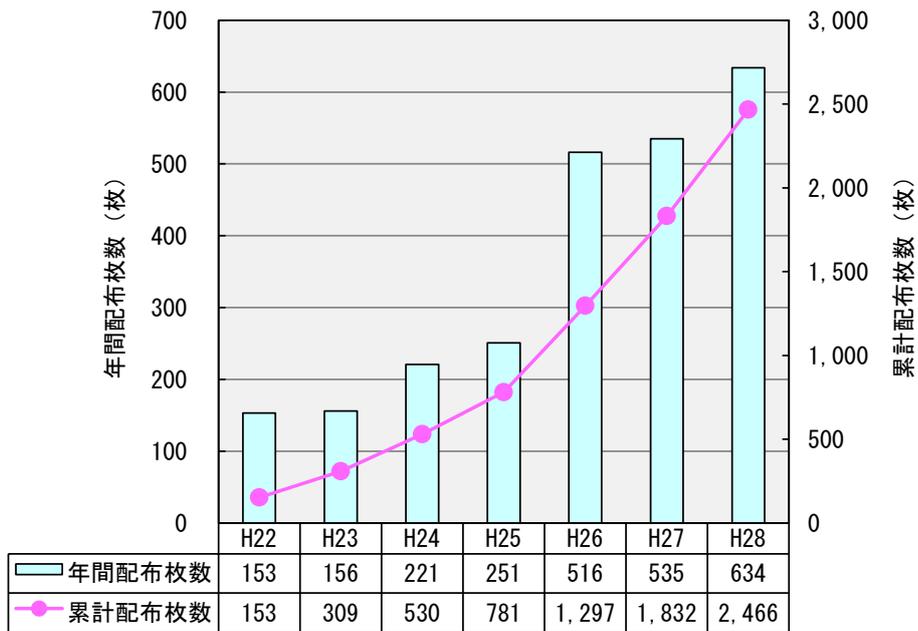


■ダムカード



図 7.4-10 加古川大堰の広報資料等

(出典:資料 7-10)



(出典:資料 7-11)

図 7.4-11 加古川大堰のダムカードの配布状況

(5) 記念イベントの開催

加古川大堰での記念イベントである完成20周年の状況を図7.4-12に示す。

加古川大堰では、平成20年7月26日に、地域にこれまでの管理報告を行うとともに、今後、地域の財産としてより一層の堰に対する関心の向上を期待して参加型の学習の場となる完成20周年の記念イベントを開催している。

次年の平成30年度も、加古川大堰は完成30周年を迎えるため、記念イベントを企画しており、記念イベントを通じて、地域との交流や地域の堰への関心の向上を図ることが重要と考えている。



『加古川大堰20周年感謝のつどい』は2部構成で行われました。

第1部 加古川大堰記念報告会

まず第1部は、「加古川大堰記念報告会」として、開式後、加古川市立平荘小学校の和太鼓クラブによる勇壮な太鼓の演奏が披露され、宮武事務所長が「加古川大堰のような公共の社会資本は、工事が終わればそれで終わりというわけではなく、その効果は加古川大堰がある限り延々と発揮されます。皆様、「おとなになりました」加古川大堰をこれまで同様、大切に、暖かく、誇りをもって見守って下さいませようお願いします。」と式辞を述べました。榎本加古川市長、登高砂市長をはじめとする主催の方による祝辞を賜った後、

綾木河川副所長が来賓の方々に加古川大堰の建設経緯、洪水時の水位低減効果、安定的な水供給を行ってきた等20年間の管理報告を行い、最後に見学者代表として地元の加古川市立上荘小学校の小学生のよるあたたかい感謝の言葉をいたたいて第1部は幕を閉じました。



式辞を述べる
宮武事務所長



感謝の言葉をいただきました。



オープニングセレモニー、地元小学生による迫力の演奏!!

第2部 加古川大堰学習体験会

第2部では、「加古川大堰学習体験会」として、地元の平荘、上荘小学校の4年生25人人を招待し、職員による加古川大堰学習の紙芝居、普段一般には入ることが出来ない加古川大堰の操作室や巨大な水門ゲートの巻き上げ機の見学、水質調査体験、貯水池探検ポイントなどの体験会を行いました。厳かな雰囲気があった第1部とは対照的に、元気な子ども達の歌声が飛び交いました。照りつける日差しで大変暑い中にもかかわらず、約150名もの多くの地域住民の皆様に参加していただきました。職員による手作りイベントでしたが、皆様



水質調査体験の様子。加古川の水はきれいかな？



職員による紙芝居

には好評いただき、当事務所が目標としていた加古川大堰に対する関心を深めていただけたものと思います。

この度二十歳を迎え、成人となった加古川大堰と姫路河川国道事務所は、これからも地域の方々との交流を深め、皆様の暮らしを守っていきます。

(出典:資料7-12)

図7.4-12 「加古川大堰20周年感謝のつどい」の開催状況

(6) 地域の声を反映した塗装色の変更

加古川大堰の塗装色の変更の様子を図 7.4-13 に示す。

加古川大堰本体ゲートの石板色の塗装作業は、平成 21 年に完了し、引き続き、管理橋等の塗り替え（砂色）作業が進められ、平成 24 年に完了している。明度を抑えた色調は、落ち着いた様相を呈しており、大規模構造物でありながら周辺景観になじむよう配慮されている。

塗装色については、平成 13 年に地域住民の意見を反映するため、平成 14 年 7 月～8 月にアンケート調査を実施し、地域から寄せられた意見を踏まえ、平成 15 年度に学識者（東京大学大学院工学系研究科篠原修教授（当時）ほか）や加古川市都市計画部、加古川市景観専門委員、河川管理者からなる「加古川大堰堰柱塗装検討会」を開催し、塗装色の検討を行っている。

塗装色は、加古川市の「加古川市景観まちづくり条例」の基準を考慮しつつ、大規模構造物である加古川大堰の明度、彩度が、ある程度落ち着いて周辺景観と調和したものとなるよう配慮している。色調の選定に際しては、実際に色見本を現場の管理棟等に部分的に設置し、その調和状況を確認しながら検討を進めている。

また、加古川大堰の魚道は、有用魚種であるアユが遡上しており、明度、色彩による忌避行動が生じないように配慮する必要があったため、姫路水族館、兵庫県内水面漁業センターとの協議を経て、景観だけでなく、アユへの影響等についても考慮している

なお、アユが忌避行動をとる色は橙色、赤色、色に対する反応が低い色は青紫、赤紫色で黄、緑、青色はその中間といわれており、「加古川大堰堰柱塗装検討会」で提案された石板色はアユの遡上には問題ないとの結論を得ている。

今後も、施設の維持管理においては、周辺の景観や自然環境に配慮し、地域の合意を得ながら進めることが重要と考えている。

■ 塗装色検討のための現地視察の様子



■ 塗装前後の様子（左：塗装前、右：塗装後）



(出典：資料 7-13)

図 7.4-13 加古川大堰の塗装色の変更

7.5 堰周辺の状況

7.5.1 周辺環境整備等の状況

加古川大堰周辺の整備状況を図 7.5-1 に示す。

加古川大堰では、堰の建設時に堰の左岸側の「管理棟周辺」及び「大堰記念公園」の2箇所の周辺環境の整備を実施した。

(1) 管理棟周辺

管理棟周辺は、加古川下流部の流水管理の中心にふさわしい環境整備として、以下の基本方針で整備を行った。

- ・大堰の維持管理機能を損わないこと。
- ・周辺の河川、地域空間とマッチした“みどりの空間”を創出すること。
- ・季節感が感じられ、豊かな情景のある植栽計画とすること。
- ・地形変化をつけ、スケール感のある空間とすること。

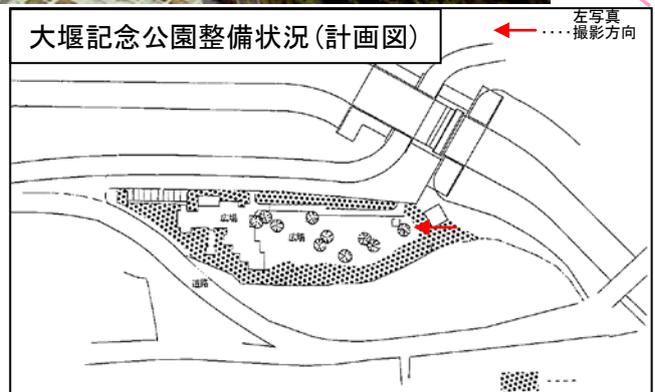
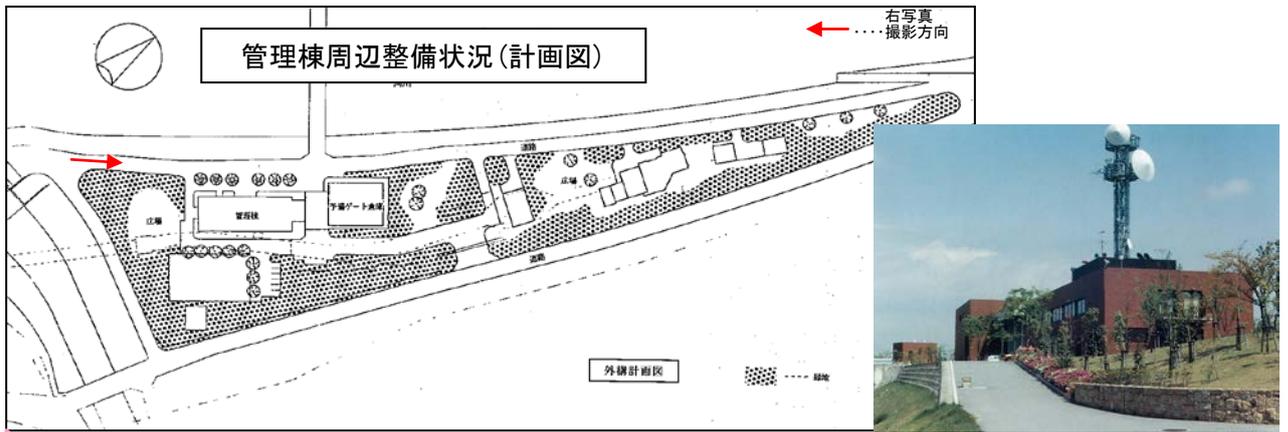
ゾーニング計画にあたって、管理棟及び周辺の施設の本来の機能に十分に配慮するとともに、管理用の大型トレーラー、見学バス等の大型車両の通行、並びに調和のとれた修景が確保出来るよう配慮した。

(2) 大堰記念公園

大堰管理棟下流部左岸(11.6k付近)の面積約0.42haの敷地を加古川大堰記念公園として整備した。公園内には、大堰事業で撤去される五ヶ井堰、上部井堰にまつわる施設、モニュメントを建設した。

大堰記念公園は以下の基本方針で整備を行った。

- ・記念公園の名にふさわしい修景、植栽計画とする他、撤去される堰にまつわる事柄をイメージするモニュメントを計画する。
- ・周辺住民の日常的な利用ならびに将来の加古川大堰周辺河川緑地の中心的な部分となるよう計画する。
- ・広域的な利用を考慮して駐車スペースも計画する。



(出典:資料 7-3、7-14)

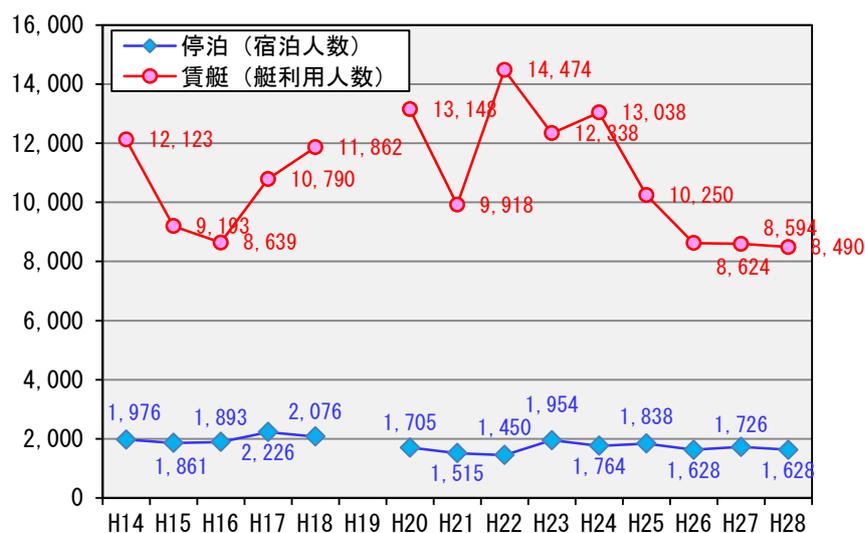
図 7.5-1 加古川大堰周辺環境整備の状況

7.5.2 堰周辺の施設の利用状況

加古川大堰の上流部にある「加古川市立漕艇センター」の経年の利用状況を図 7.5-2 に、加古川マラソンの経年の参加者数を図 7.5-3 に示す。

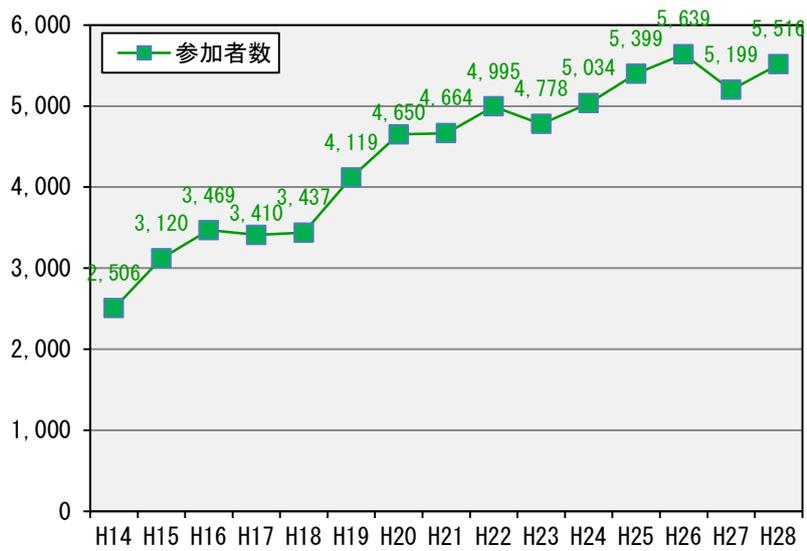
加古川大堰の堰上流部の水面は、川幅 200m、水深 2～5m、直線 2,000m 等の諸条件がボート競技に適しており、日本漕艇協会から公認コース B 級(1,000m×5 レーン)の認定を受けている。大堰の水面を利用し、市内外から多数の参加者がある夏の加古川市民レガッタ、秋の加古川レガッタ（関西学生リーグ）等の多くの漕艇のイベントが開催されている。また、漕艇の利用者の窓口、ボートの貸し出し、宿泊施設の提供等のため、堰の上流部に「加古川市立漕艇センター」が設置されている。漕艇センターの利用者数は、年により変動はあるものの、平成 28 年度も 10,000 人を超えている。

加古川に整備される緊急用河川敷道路は、「加古川みなもロード 県立加古川河川敷マラソンコース」として利用されており、コースには加古川大堰の管理用道路も含まれている。マラソンコースでは、市内外から多数の参加者がある「加古川マラソン」が、毎年 12 月 23 日には開催されている。「加古川マラソン」の参加者数は、徐々に増加し、平成 24 年度以降は 5,000 人を超えており、平成 28 年度は 5,516 人となっている。



(出典:資料 7-7)

図 7.5-2 加古川市立漕艇センターの経年の利用状況



(出典:資料 7-7)

図 7.5-3 加古川マラソンの経年の参加状況

■参考：平成 29 年度に実施された浚渫工事について

平成 29 年 3 月～5 月に、堰の貯水池容量確保を目的に実施された浚渫工事により、2,000m コースも使用可能となっている。平成 29 年 7 月 29 日～30 日に開催された「加古川レガッタ」では、「漕ぎ初め」の記念セレモニーも実施されている。



(出典:資料 7-10)

7.6 河川水辺の国勢調査(河川空間利用実態調査)結果

7.6.1 河川空間利用実態調査

(1)「河川空間利用実態調査」の概要

「河川空間利用実態調査」とは、国土交通省が管理する一級河川(水系)において、河川空間の利用状況の実態を把握し、良好な河川空間の保全・整備に資することを目的に実施するもので、平成22年度からは5年に1回の間隔で、全国一斉に指定された計7日の調査日に河川利用者数を把握するための調査である。調査実施日は下記のとおりである。

- 春季：4月29日(昭和の日)、5月5日(こどもの日)、5月の第3月曜日(平日)
- 夏季：7月最終日曜日(休日)、7月最終日曜日の翌日(平日)
- 秋季：11月3日(文化の日)
- 冬季：1月の成人の日に指定された休日

詳細の調査方法は、「平成16年度版 河川水辺の国勢調査マニュアル(案)(河川空間利用実態調査編)」に示されており、概要は下記のとおりである。

- 河川を数ブロックに分割する。
- ブロック内を自然的利用区域と施設的使用区域に区分する。
- ブロックの利用区域毎に平均的利用状況を代表する定点(1km程度の距離)を設定する。
- 定点観測：定点において、日の出から日没までの間を2時間毎に区切り、利用者数の観測を行う。
- 区間観測：定点以外の区間については、1日1回、調査員が移動しながら、利用者数を観測する。定点とその他の区間との1日の利用者数の時間区分が同じと考え、区間観測した時刻と同時刻帯の定点観測の値との比より、区間観測1日の利用者数総数を推計する。
- その他、他の区域に比べて、特に利用者の多い特定利用区域や有料施設区域については、それぞれ1日の利用者数を集計する。
- 以上の定点観測、区間観測の調査結果の値を合計し、各ブロックの利用者数を求める。

(2) 経年の調査結果

加古川大堰周辺での河川空間利用実態調査における年間利用者数の推計値の経年の状況を図7.6-1に示す。

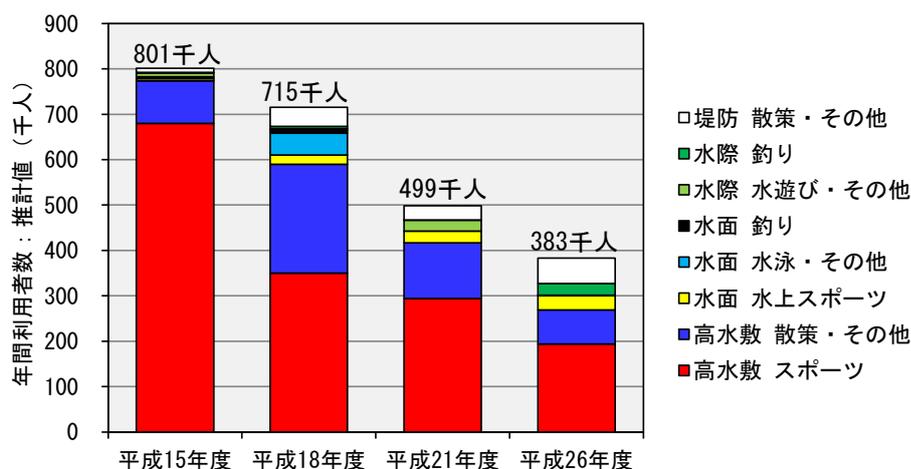
加古川大堰周辺の年間利用者数の推計値は、堰を含む10km～16kmの区間の各調査日の利用者数の計測値より、「平成16年度版 河川水辺の国勢調査マニュアル(案)(河川空間利用実態調査編)」に準じた計算式に基づき、算出している。年間の天気については、日積算降水量5mm未満の日を「晴」、5mm以上を「雨」として計算している。

年間利用者数の推計値は、平成15年度が80万1千人、平成18年度が71万5千人、平成21年度が49万9千人、平成26年度が38万3千人と徐々に減少傾向であった。平成21年度と平成26年度を比較すると、高水敷でのスポーツや散策での利用者数の減少が顕著であった。加古川大堰下流の高水敷には、両岸にスポーツや散策で利用できる河川敷緑地が整備されている。平成26年度は、平成21年度と比較し、「雨」の日が6日多く、年間を通じて、天候が不順な日も多かったことから、河川敷緑地の利用者が減少したことに起因する可能性がある。

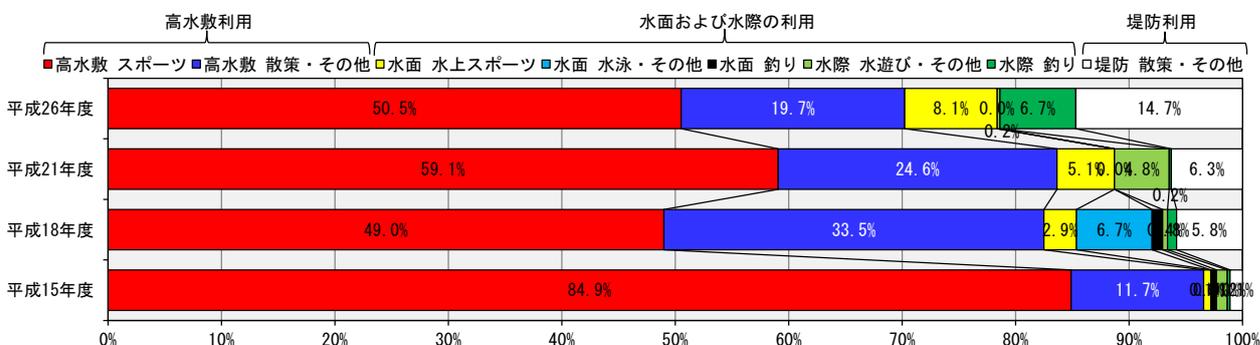
加古川大堰周辺の利用者数の特徴としては、水面のスポーツでの割合が多いことに挙げられる。平成26年度も全体の利用者の8.1%を占めており、大堰の湛水域の水面をレガッタ等の漕艇で楽しむ利用者が多い状況がうかがえる。

また、平成26年度は堤防利用の割合が、平成21年度の6.3%から14.7%と顕著に増加しており、近年の健康志向により、歩きやすい堤防の管理用道路を散策やジョギング等で利用する人が増加している状況がうかがえる。加古川の河川敷道路は、「加古川みなもロード 県立加古川河川敷マラソンコース」として、地域の人々にも福祉にも役立っている可能性があるものと考えられる。

■年間利用者数の推計値の推移



■年間利用者数の推計値割合の推移



(出典:資料 7-15)

図 7.6-1 加古川大堰周辺の利用状況

7.6.2 川の通信簿

(1) 「川の通信簿」の概要

「川の通信簿」とは、河川内で利用が想定される箇所を選定し、市民と河川管理者が、現地において共同して河川の利用のしやすさを5段階で評価したもので、平成15年度に第1回目の調査が行われている。

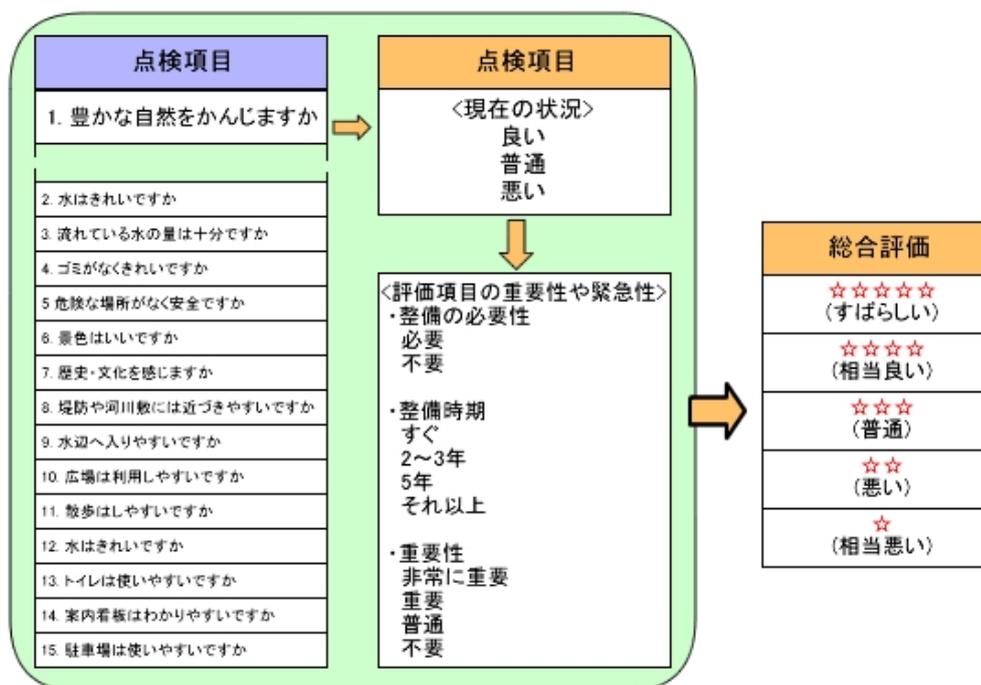
目的と点検項目は以下のとおりである。

○「川の通信簿」の目的

全国の河川空間の親しみやすさや快適性などを現地において市民と共同でアンケート調査を実施した結果から、良い点・悪い点を把握し、河川整備計画や日常の維持管理等に反映することにより、良好な河川空間の保全、整備、管理を図る。

○「川の通信簿」の点検項目

15の点検項目があり、それらの重要度、良い悪いなどの状態、整備の必要性を点検し、最後に5段階評価を行っている。(下図参照)



※この通信簿は、点検者が主観的に評価するものであり、川の優劣をつけるものではない。

(出典:資料 7-15)

図 7.6-2 川の通信簿の点検項目

(2) 経年の点検結果

加古川大堰周辺の川の通信簿の対象調査地区を図 7.6-3 に、平成 26 年度の点検結果となる通信簿を図 7.6-4 に、経年の点検評価一覧を表 7.6-1 に示す。

加古川大堰周辺の川の通信簿の調査地区は、堰下流の高水敷の両岸に整備された「加古川河川敷緑地（両荘地区）」と「加古川河川敷緑地（新神野地区）」の 2 箇所が該当する。

平成 26 年度の点検結果となる通信簿について、「加古川河川敷緑地（両荘地区）」は、「かなり良い部分があり、一定の満足感を味わえる」と「☆☆☆（三つ星）」の評価となっている。良い点としては、「施設が利用しやすい」、「除草等、手入れが行き届いている」、「開放的で子供たちもいっぱい体を動かすことができる」等の意見を頂いている。また、悪い点としては、「ベンチなどに屋根が欲しい」、「休憩施設が少ない」等の意見もいただいている。課題として、木陰やベンチ等の休憩施設やトイレの整備、水辺の安全確保のための工夫等が上げられている。

「加古川河川敷緑地（新神野地区）」は、「かなり良い部分があり、一定の満足感を味わえる」と「☆☆☆（三つ星）」の評価となっている。良い点としては、「駐車場や広場が良く整備してある」、「広く、景色がよい」、「遊びやすい」等の意見を頂いている。また、悪い点としては、「ゴミが多く汚い」、「利用者のマナーが悪い」、「ベンチなどの休憩施設が欲しい」等の意見を頂いている。

経年の点検結果の成績表では、両地区とも、評価は「☆☆☆（三つ星）：かなり良い部分があり、一定の満足感を味わえる」、もしくは「☆☆☆☆（四つ星）：相当良い、満足感を味わえる」と、概ね良好な成績となっており、地域のスポーツや散策を楽しむ場として機能しているものと考えられる。



(出典:資料 7-15)

図 7.6-3 「川の通信簿」点検箇所位置

～川の親しみやすさの成績表～

川の通信簿

箇所名： 加古川河川敷緑地(両荘地区)

豊かな自然の中でスポーツができる河川敷緑地

■加古川河川敷緑地(両荘地区)はこんな所

河川名	1級河川加古川水系加古川右岸9.6K+145m～12.0K+186.3m
所在地	兵庫県加古川市平荘町里～上荘町都染地先
アクセス	JR神野駅より徒歩30分
面積	241,857.80m ²
管理者	加古川市
特徴	本緑地は、地理的条件から自動車で訪れる利用者が多いため駐車場の整備が十分になされています。また、野球場や陸上競技場などが整備され、休日には各種スポーツ愛好家などに多く利用されています。
主な利用	散歩、野球、ソフトボール、ジョギング、バーベキュー
点検参加人数	25名



■平成26年現在の成績表

総合的な成績： ☆☆☆(三つ星)

かなり良い部分があり、一定の満足感を味わえる

No.	点検項目	現在の状況			整備必要%	重要度			
		良い	普通	悪い		非常に重要	重要	普通	不要
1	豊かな自然を感じますか		○		28%		○		
2	水はきれいですか		○		32%			○	
3	流れている水の量は十分ですか		○		20%			○	
4	ゴミがなくきれいですか		○		40%		○		
5	危険な場所がなく安全ですか		○		36%		○		
6	景色はいいですか		○		16%			○	
7	歴史・文化を感じますか		○		16%			○	
8	堤防や河川敷には近づきやすいですか		○		28%			○	
9	水辺へ入りやすいですか		○		40%			○	
10	広場は利用しやすいですか	○			16%		○		
11	休憩施設や木陰は十分ですか		○		52%		○		
12	散歩はしやすいですか	○			20%		○		
13	トイレは使いやすいですか		○		68%		○		
14	案内看板はわかりやすいですか		○		40%			○	
15	駐車場は使いやすいですか		○		28%		○		

良い点

悪い点

■特に良い点

- ・施設が利用しやすい。
- ・除草等、手入れが行き届いている。
- ・開放的で子供たちもいっぱい体を動かすことができる。
- ・とても広くて使いやすい。

■特に悪い点

- ・ベンチなどに屋根が欲しい。
- ・休憩施設が少ない。
- ・水道が少ない。
- ・トイレを使いやすい、数も増やして欲しい。
- ・子供が川に入りやすいのが危険。

■総合コメント

広々とした高水敷に陸上競技場や野球場などスポーツ施設が整備しており、スポーツには最適な緑地で、除草などの手入れも行き届いています。
5つ星にするためには、木陰やベンチなどの休憩施設やトイレの整備、水辺の安全確保のための工夫が必要です。

(出典:資料 7-15)

図 7.6-4 (1) 平成 26 年度の通信簿

～川の親しみやすさの成績表～

川の通信簿

箇所名: **加古川河川敷緑地(新神野地区)**

広々とした緑いっぱいの河川敷緑地

■加古川河川敷緑地(新神野地区)はこんな所

河川名	1級河川加古川水系加古川左岸9.4K~11.2K+135m
所在地	兵庫県加古川市新神野地先
アクセス	JR神野駅より徒歩20分
面積	101,439.33m ²
管理者	加古川市
特徴	本緑地は、加古川を代表する河川公園で、散策等で多くの市民に利用されています。特に、犬の散歩場所として利用されることが多い公園です。
主な利用	つり、散策、ジョギング、バーベキュー
点検参加人数	24名



■平成26年現在の成績表

総合的な成績: **☆☆☆(三つ星)**

かなり良い部分があり一定の満足感を味わえる

No.	点検項目	現在の状況			整備必要%	重要度			
		良い	普通	悪い		非常に重要	重要	普通	不要
1	豊かな自然を感じますか		○		17%		○		
2	水はきれいですか		○		38%		○		
3	流れている水の量は十分ですか		○		17%			○	
4	ゴミがなくきれいですか		○		42%		○		
5	危険な場所がなく安全ですか		○		25%		○		
6	景色はいいですか		○		17%		○		
7	歴史・文化を感じますか		○		21%			○	
8	堤防や河川敷には近づきやすいですか		○		25%		○		
9	水辺へ入りやすいですか			○	33%		○		
10	広場は利用しやすいですか		○		17%			○	
11	休憩施設や木陰は十分ですか		○		50%		○		
12	散歩はしやすいですか	○			8%			○	
13	トイレは使いやすいですか		○		75%		○		
14	案内看板はわかりやすいですか		○		17%		○		
15	駐車場は使いやすいですか		○		21%		○		

■ 良い点 ■ ■ 悪い点 ■

■特に良い点

- ・ 駐車場や広場が良く整備してある。
- ・ 広く、景色がよい。
- ・ 遊びやすい。

■特に悪い点

- ・ ゴミが多く汚い。
- ・ 利用者のマナーが悪い。
- ・ ベンチなどの休憩施設が欲しい。

■総合コメント

広々として緑が多く、利用しやすい河川敷緑地となっています。
5つ星にするためには、休憩施設の整備に加え、利用者のマナーを向上させる工夫が必要です。

(出典:資料 7-15)

図 7.6-5 (2) 平成26年度の通信簿

表 7.6-1 経年での点検評価一覧（川の通信簿 成績表）

No.	点検項目	両荘地区（右岸）				新神野地区（左岸）			
		H15	H18	H21	H26	H15	H18	H21	H26
1	豊かな自然を感じますか								
2	水はきれいですか	○		○		○		○	
3	流れている水の量は十分ですか								
4	ゴミがなくきれいですか		×						
5	危険な場所がなく安全ですか			○					
6	景色はいいですか	○		○		○		○	
7	歴史・文化を感じますか	×				×		○	
8	堤防や河川敷には近づきやすいですか		○	○					
9	水辺へ入りやすいですか					×	×	×	×
10	広場は利用しやすいですか	○		○	○	○		○	
11	休憩施設や木陰は十分ですか		×	×			×	×	
12	散歩はしやすいですか	○		○	○	○	○	○	○
13	トイレは使いやすいですか							×	
14	案内看板はわかりやすいですか								
15	駐車場は使いやすいですか			○		○		○	
-	総合評価	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆
-	点検者数	n=21	n=20	n=20	n=20	n=20	n=20	n=22	n=22

注 1) ○：調査年で、「現在の状況＝良い」+「重要度＝非常に重要 or 重要」と評価された項目を示す。

注 2) ×：調査年で、「現在の状況＝悪い」+「整備必要＝50%以上」+「重要度＝非常に重要 or 重要」と評価された項目を示す。

注 3) 総合評価：点検者各自による定性的な 5 段階評価の平均値。点検項目にある○×の数に相関性はない。

注 4) ☆☆☆☆：総合的な成績に基づき、「相当良い。満足感を味わえる」という評価となったことを示す。

注 5) ☆☆☆：総合的な成績に基づき、「かなり良い部分があり、一定の満足感が味わえる」という評価となったことを示す。

（出典：資料 7-15）

■参考：水辺の関わるご意見について

川の通信簿での点検者の水辺に関するご意見の一覧を表 7.6-2 に示す。

加古川大堰の直下流に位置する河川敷緑地に、地域住民が親子で水辺に親しむ環境や要望に係る状況を把握するため、川の通信簿で実施されている点検者の既往のご意見を確認し、水辺に関するご意見を参考資料として、整理した。

水辺に関する主なご意見の概要は、次のとおりである。

1) 両荘地区

両荘地区の河川敷緑地は、ご意見を総合すると、水辺へ近づくことができる状況にあるものと考えられる。ただし、逆に水辺に近づきやすい状況が危険とするご意見や、もっと近づきやすい整備を望むご意見もあった。

2) 新神野地区

新神野地区の河川敷緑地は、ご意見を総合すると、両荘地区に比べ、水辺に近づきにくい状況にあるものの、水辺に近づける親水護岸は整備されている状況と考えられる。両荘地区に比べ、水辺に近づきにくい状況を反映し、ご意見にも水辺に近づきやすい状況を創出する整備を望むご意見が多い状況であった。

3) まとめ

両荘地区および新神野地区ともに、公園内には、水辺のアクセスに係る場の特段の整備は、これまでに行われていない。

よって、地域住民が水辺の親しむ自然的な場はあるものの、現状は子供が遊ぶには危険な状況と見なす方が多い状況にあると考えられる。整備を実施する場合は、子供が水辺に近づきやすいような目線でのアクセス路やバイリアフリーの親水護岸の設置案等が上げられる。

なお、両荘地区では、ワンド再生に係る自然再生事業が実施されており、親水に係る整備を実施するには、自然再生事業との連携を図る必要がある。

表 7.6-2 川の通信簿での点検者の水辺に関するご意見の一覧

地区名	調査年度	水辺に係るご意見
両荘	H15	<ul style="list-style-type: none"> ・川の中が汚い。 ・水の流れているところでは子供が危険。 ・もっと川べりを散歩したい
	H18	<ul style="list-style-type: none"> ・河畔林をきれいに整備してほしい。 ・水辺に近づけるよう河畔林内に通路を設置してほしい。 ・水辺で遊べるよう河畔林の間引きをしてほしい。
	H21	<ul style="list-style-type: none"> ・川にゴミが浮いている。
	H26	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が河川に入りやすいのが危険。 ・危険なので、子供が川辺に入れないように対策が必要。 ・川の増水が多いので、気になる。
新神野	H15	<ul style="list-style-type: none"> ・川の遊び場所が少ない。 ・水辺に入りにくい。 ・夏と冬は堰の下に水が少ない。
	H18	<ul style="list-style-type: none"> ・川の水量が少ない時は、悪臭がすることがある。 ・子供が河畔林の中に入って遊んでいるが、看板などで安全に対する注意をすべきではないか。 ・水辺に近づけるよう河畔林内に通路を設置してほしい。 ・水辺で釣りなどができるよう河畔林の間引きをしてほしい。
	H21	<ul style="list-style-type: none"> ・堰のおかげで、河川の氾濫がなくなった。 ・水辺の簡単に降りられる階段が子供にとっては危険。 ・水辺に柵がなく危険。
	H26	<ul style="list-style-type: none"> ・川に近づけない。 ・川が臭い。

(出典:資料 7-15)

7.6.3 まとめと今後の方針

(1) 堰と周辺地域との関わりのまとめ

- 堰の湛水域は、「加古川市立漕艇センター」が整備され、漕艇場として市民に親しまれている。
- 堰周辺では多くのイベントが開催されており、加古川市民レガッタ、加古川マラソン、加古川ツーデーマーチ等が毎年開催されており、特に漕艇イベントでは、会場を提供するだけでなく、運営協力・安全管理等についても、地域や主催者と連携している。
- 堰では、地域の小中学校に総合学習の一環として、見学会を積極的に受け入れており、また、地域連携プログラムとして、年1回の環境学習会を開催している。

(2) 今後の方針

- 引き続き、地域の社会環境の変化を把握していくとともに、堰周辺の環境について地域のイベントや漕艇等の場として利用に配慮し、快適な利用が継続されるよう維持管理を行っていく。
- 地域における堰の役割等について、これまでと同様な活動を通じて、地域に広報・PRする取り組みを継続する。

7.7 文献リスト

表 7.7-1 「7. 堰と周辺地域との関わり」に使用した文献・資料リスト

NO.	文献・資料名	発行者	発行年月	引用ページ・箇所
7-1	国勢調査結果(加古川市、高砂市の産業別就業人口) http://www.stat.go.jp/index.htm	総務省統計局	—	7.1 堰周辺地域の概況 (2)人口 (3)産業 ■参考: 堰周辺の小地域単位の人口動態について
7-2	パンフレット「加古川」	姫路河川国道事務所	—	7.2 堰の立地特性 (2) 周辺の観光施設(スポット)等の状況
7-3	観光客動態調査 https://web.pref.hyogo.lg.jp	兵庫県	—	7.2 堰の立地特性 ■参考: 統計データを用いた堰周辺の観光者の動態
7-4	加古川大堰工事誌	近畿地方建設局 姫路工事事務所	平成5年3月	7.3 堰事業と地域社会情勢の変遷 7.5.1 周辺環境整備等の状況
7-5	加古川市総合計画[2016-2020]	加古川市	平成28年3月	7.4.1 地域における堰の位置づけに関する整理 (1)加古川市総合計画(平成28年度版)
7-6	加古川観光協会ホームページ (http://kako-navi.jp/)	加古川観光協会	—	7.4.1 地域における堰の位置づけに関する整理 (2)わがまち加古川 60 選
7-7	加古川大堰年次報告書	姫路河川国道事務所	平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度 平成28年度	7.4.2 地域と堰管理者の関わり (1)イベントの開催・協力 (2)見学会の実施 7.5.2 堰周辺の施設の利用状況
7-8	広報かこがわ	加古川市	—	7.4.2 地域と堰管理者の関わり (1)イベントの開催・協力
7-9	加古川大堰環境調査業務報告書	姫路河川国道事務所	平成26年度 平成27年度 平成28年度	7.4.2 地域と堰管理者の関わり (3)環境学習会の実施
7-10	姫路河川国道事務所ホームページ (http://www.himeji.kkr.mlit.go.jp/)	姫路河川国道事務所	—	7.4.2 地域と堰管理者の関わり (4)地域への情報提供 7.5.2 堰周辺の施設の利用状況 ■参考: 平成29年度に実施された浚渫工事について
7-11	事務所提供資料	姫路河川国道事務所	—	7.4.2 地域と堰管理者の関わり (4)地域への情報提供
7-12	平成24年度加古川大堰管総合評価業務報告書	姫路河川国道事務所	平成25年3月	7.4.2 地域と堰管理者の関わり (5)記念イベントの開催
7-13	加古川大堰堰柱塗装検討会資料及び議事録等	姫路河川国道事務所	平成15年11月	7.4.2 地域と堰管理者の関わり (6)地域の声を反映した塗装色の変更
7-14	パンフレット「加古川大堰電気通信施設の概要」	姫路河川国道事務所	—	7.5 堰周辺の状況 7.5.1 周辺環境整備等の状況
7-15	河川空間利用実態調査結果	姫路河川国道事務所	平成15年度 平成18年度 平成21年度 平成26年度	7.6 河川水辺の国勢調査(河川空間利用実態調査結果)